令和２年度

ファカルティ・ディベロップメント
推 進 委 員 会 活 動 報 告 書

令和３年３月

兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会

令和２年度ファカルティ・ディベロップメント推進委員会活動報告書

【目　次】

Ⅰ　令和２年度ＦＤ活動の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１．令和２年度の活動概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

２．令和２年度中期計画・年度計画　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

３．令和２年度の主なＦＤ活動一覧　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6

Ⅱ　１年間の活動実績　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　7

１．ＦＤ活動のこれまでの取組成果のまとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　8

２．Webアンケート形式による授業評価実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

３．令和２年度「学生による授業評価」実施結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

４．「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について　・・・・・・・・・・・・28

５．「ベストクラス」の選定・公表　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35

６．アクティブ・ラーニング研究会の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

７．学生・教職員ＦＤ活動交流会の実施　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47

８．令和２年度　他大学等のＦＤ研究会等参加状況一覧　・・・・・・・・・・・・・・・52

Ⅲ　資料　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53

１．本学におけるＦＤの定義について　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54

２．兵庫教育大学におけるＦＤ推進活動への取り組み　・・・・・・・・・・・・・・・・55

３．　国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程　・・・56

４．　授業公開の実施に関する申合せ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59

５．　本学におけるＦＤ推進委員会と教育研究組織との関連図　・・・・・・・・・・・・・60

６．　ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿(令和２年度)　・・・・・・61

Ⅰ　令和２年度ＦＤ活動の概要

Ⅰ．令和２年度FD活動の概要

１．令和２年度の活動概要

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年とは異なる方法を取り入れながら、以下のFD活動に取り組んだ。

まず、FD推進委員会及び学生・教職員FD活動交流会についてはWeb会議形式で開催し、毎年度実施している授業評価はマークカードからWebアンケート形式に変更し、ベストクラスの授業公開については中止とした。さらに、アクティブ・ラーニング研究会については、教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）及びＩＲ総合戦略企画室との共催で計３回の研究会をWeb形式で開催した。

また、令和２年度年度計画02.05にあるこれまでの取組の成果について、平成28～令和元年度のFD活動（授業評価、アクティブ・ラーニング研究会、ベストクラス、授業公開）の分析を元に取組成果のまとめを作成した。

令和２年度は、FD推進委員会を４回、学生・教職員FD交流会を３回開催した。FD推進委員会各回の主な議題は、次のとおりである。

FD推進委員会における主な議題

第1回	令和２年度におけるFD活動の取り組みについて 令和２年度前期授業評価について
第2回	令和元年度開講授業科目におけるベストクラスの選定について 令和２年度後期授業評価について 教職大学院実習科目授業評価の実施について
第3回	FD活動のこれまでの取組の成果について ベストクラスのよりよい選定方法等について アクティブ・ラーニング研究会の共催について
第4回	令和２年度FD推進委員会活動報告書の作成について

（１）FD活動のこれまでの取組成果のまとめ

本年度は、年度計画02.05.の「アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策を引き続き実施し、これまでの取組の成果をまとめる。」にあわせて、第３期中期計画の年度内で実施したFD活動の取組の成果をまとめた（8頁）。

（２）Webアンケート形式による授業評価実施

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、授業がオンライン形式で行われたことに伴い、前後期ともにWebアンケート形式で授業評価を実施した。通常のアンケート項目のほかに、前期はオンライン授業に関する項目（⑮～⑰）を加え、後期は授業形態の設問を追加した（15～18頁）。Webアンケート形式で授業評価を実施する上で、回答率及び重複回答に課題を残した。

さらに、教職大学院実習科目の授業評価を昨年度同様、Web上で実施した。

（3）ベストクラスの選定・公表

ベストクラスの選定については、令和元年度に開講された授業科目を対象に、学生・教職員FD活動交流会での選定及びFD推進委員会での審議を経て、12科目のベストクラスを決定した。ベストクラスの選定にあたっては、学生による授業評価の評価項目の平均値が3.5以上の授業科目を対象として、授業規模、授業形態、履修年次、科目区分を考慮に入れ、学部、修士、専門職学位課程の授業の中から、自由記述をもとに12程度に絞り込んだ。その後、学生・教職員FD活動交流会のメンバーが、授業担当者、受講学生へ授業についての聞き取り調査を行い、最終的に決定されたベストクラスが、36頁の表である。

また、決定したベストクラスについては、10月開催の研究科教授会で共有するとともに、本学Webサイトに選定理由書を添えて公表した。

（4）アクティブ・ラーニング研究会の実施

本年度のアクティブ・ラーニング研究会は、教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）との共催で（Society5.0×Teacher Education研究会として）２回、IR総合戦略企画室との共催で１回実施した（下表参照）。

	開催日	講師	テーマ	共催
第１回	2020.12.4	石井英真氏 （京都大学大学院教育学研究科准教授）	オンライン授業の先に何を見るか	教員養成・研修高度化センター (FDデザインチーム)
第２回	2021.1.22	鳥居朋子氏 （立命館大学教育開発推進機構教授　大学評価・IR室副室長）	大学教育の継続的改善に向けたIRとFDの連動 ―立命館大学の事例を手がかりに―	IR総合戦略企画室
第３回	2021.2.26	白水始氏 （国立教育政策研究所初等中等教育研究部総括研究官 東京大学高大接続研究開発センター客員教授）	アクティブ・ラーニングを問い直す ―オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性―	教員養成・研修高度化センター (FDデザインチーム)

第１回では、自らのオンライン授業について問い直すとともに、従前の対面授業はもちろん授業そのものについて深く思考するための視点や論点を学んだ。たとえば、ICT とのつきあい方、オンライン授業に求められる発想の転換とオンライン化の核心などである。また、オンライン授業と対面授業が併存する今後において、学生が「たしかに学んだ」という状態はいかに定義されるのか、学生の学びがどのような状態なら大学は責務を果たしたことになるのか。新人教員の育成と現職教員の力量向上という明確なミッションをもつ本学にあって看過できないこれらの問いについて思考する機会ともなった。

第２回では、学生の学習成果、動向をいかに測定、把握し、それをどのようにして実際の教育改善活動に繋げていくのか。学生と教職員が成長の実感と喜びを分かち合える大学であるために、教職員と組織に求められることは何か。大学教育の基幹に位置するこうした問いをめぐって思考を重ね取り組みを進めるために、その核心にある考え方や具体的方法等について事例をまじえながら学ぶこととなった。

第３回では、対面であれオンラインであれ、授業の形態にかかわらず大学教育に求められるアクティブ・ラーニングについて、その源流、初等中等教育における位置づけ、評価、コロナ禍の中で大切にしたいことの４つの論点を中心に講演が行われた。知識構成型ジグソー法を活用した授業も実際に体験しながら、アクティブ・ラーニングをめぐって深く豊かに思考する機会となった。

なお本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ベストクラス選定科目の授業公開・研究会は実施しなかった。

（５）学生・教職員 FD 活動交流会の実施

本年度は、学生メンバー選出の方法を変更したため、その数が大きく増えることとなった。例年、学生・教職員 FD 活動交流会はベストクラス候補となる授業科目の選定を主たる活動としてきたが、本年度はこれに加えて第３回の交流会において、学生メンバーと教職員が「学生による授業評価」「ベストクラス選定方法」「FD 活動のアピール方法」等の幅広いトピックについて率直な意見交換を行った。授業評価に授業形態に関する項目を追加したことを既述したが、それはここでの協議が基になっている。学生メンバーの増員が奏功したのか、ほかにも吟味に値する論点や建設的な提案等がいくつも現れることとなった。来年度以降、それらについて FD 推進委員会のなかで検討していくことにしたい。

（６）今後の課題

「教育改善への取り組み（FD 活動）／令和２年度まとめ」（8 頁参照）に簡潔に整理されているように、本学の FD 活動は主に次の４つを基柱に展開されている。その４つとは、①授業評価アンケートの全学的実施、②アクティブ・ラーニング研究会の企画・実施、③ベストクラスの選定・公表、④授業公開・研究会の実施、である。本年度、感染症の拡大に伴って活動が制約されたなかでも、こうした活動の多くをオンラインを活用することで概ね従前のとおりに実施することができた。しかし、「④授業公開･研究会の実施」に関しては、感染症拡大防止の観点から見送らざるを得なかった。次年度もこの状況が続くとすれば、ベストクラスに選定された授業科目の公開とその後の授業研究会をいかに実施するかが、まずもっての課題として挙げられよう。

また「①授業評価アンケートの全学的実施」に関して、すでに言及したことだが、オンラインで実施することの可能性が展望された一方で、課題も認められた。それは、対面実施に比しての回答率の低下や重複回答の発生といった問題である。こうした問題は、授業評価の信頼性にかかわると考えられ、次年度以降、適切な対応が求められる事案といえよう。

ハイブリッド、ハイフレックスといったオンライン授業の展開が要請される今後にあって、その授業の質向上に向けて、本委員会が果たすべき役割は大きい。教員養成・研修高度化センター先端教育研究開発コアとも密接に連携しながら、本学教員の充実した学びに寄与していきたい。

２．令和２年度　中期計画・年度計画

令和２年度のファカルティ・ディベロップメント推進委員会に係る中期計画及び年度計画は次のとおりである。

中期計画12	教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため、ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により、ベストクラスの選定、教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等、全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。
年度計画12	・ベストクラス選定，学生による授業評価，アクティブ・ラーニング研究会等の全学的なFD活動を推進する。

（実施組織：FD推進委員会）

中期計画02	学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、学修時間の確保、シラバスの充実及び学修成果の可視化に取り組む。
年度計画02	・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策を引き続き実施し，これまでの取組の成果をまとめる
中期計画05	学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し、併せて、学生に能動的な学習指導法、及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また、教員養成スタンダード（大学院）に示された資質・能力の観点から授業内容・方法を見直し、シラバス改善、学修成果の可視化に取り組む。
年度計画05	・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策を引き続き実施し，これまでの取組の成果をまとめる。

（実施組織：学部教務委員会(02)、大学院教務委員会（05）FD推進委員会(02,05)　）

中期計画03	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果の分析を行い、授業改善の具体的指針を明確化する。また、卒業認定については、新人教員としての資質や能力を着実に育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って、卒業判定基準に基づき厳密に行う。
年度計画03	・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って，授業改善を組織的に推進する。
中期計画06	厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに、学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード（大学院）の観点から、授業改善の具体的指針を明確化する。 また、修了認定については、教育に関連する質の高い人材を育成する観点から、ディプロマ・ポリシーに従って見直し、厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。
年度計画06	・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って，授業改善を組織的に推進する。

（実施組織：学部教務委員会(03)、大学院教務委員会（06）FD推進委員会(03,06)　）

３．令和２年度の主なFD活動一覧

日　　付	事　　項
令和 2年 5月21日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第１回）
令和 2年 7月 2日	第１回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス選定作業）
令和 2年 7月18日	関西地区FD連絡協議会第１３回総会出席
令和 2年 7月 2日 ～ 10月31日	前期「学生による授業評価」実施
令和 2年 9月17日	第２回学生・教職員FD活動交流会（ベストクラス候補科目を選定）
令和 2年 9月24日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第２回）
令和 2年10月	令和元年度授業科目における「ベストクラス」を公表（大学Webサイト）
令和 2年11月16日	第３回学生・教職員FD活動交流会（学生による授業評価等の意見交換）
令和 2年11月25日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第３回）
令和 2年12月 4日	Society5.0×Teacher Education研究会（第１回） 「オンライン授業の先に何を見るか」
令和 3年 1月13日 ～ 3月19日	後期「学生による授業評価」実施
令和 3年 1月22日	令和２年度ＩＲ学内研修会 「大学教育の継続的改善に向けたＩＲとFDの連動可能性」
令和 3年 2月18日 ～ 3月12日	「兵庫教育大学教職大学院実習科目授業評価」実施
令和 3年 2月26日	Society5.0×Teacher Education研究会（第２回） 「アクティブ・ラーニングを問い直す ―オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性―」
令和 3年 3月25日	ファカルティ・ディベロップメント推進委員会（第４回）

Ⅱ　１年間の活動実績

１．ＦＤ活動のこれまでの取組成果のまとめ

教育改善への取り組み（FD 活動）/ 令和２年度まとめ

R2.11.25

兵庫教育大学の FD 活動と推進組織

兵庫教育大学では，ファカルティ・ディベロップメント（FD）を単なる授業改善ではなく，教育の質保証をめざすあらゆる取り組みと位置づけ，FD 推進委員会を中心に様々な施策を実行している。

平成 25 年度には「本学における FD の定義」の下，教職員と学生が直接対話をしながら，FD 活動の推進を検討するために「学生・教職員 FD 活動交流会」（以下「交流会」という。）を設置し，全学的な取組による FD 活動を展開している。

FD に関する主な施策（四本柱）

FD 活動の基本は，既にある優れた取り組みを掘り起こすという考えのもと，次の四本柱を交流会が支えるという構図で展開している。

(1) 授業評価アンケートの全学的実施〔中期計画：03，06〕

授業評価アンケートは，全科目の全受講者を対象に毎学期実施している。授業評価アンケートの結果は，授業の振り返りと改善のための重要な指標として，各学期終了後，すべての教員に配付している。各教員は毎学期，授業評価アンケートの結果を参考に授業の内容および運営の振り返りを行い，翌学期に向けた「授業改善」に努めている。

(2) アクティブ・ラーニング研究会の企画・実施〔中期計画：02，05，12〕

授業改善・研究のため，アクティブ・ラーニングはもとより，PBL（Problem-based Learning），反転授業，アクション・リサーチなど，様々なテーマに沿って外部講師を招聘し，平成 25 年度から随時，「アクティブ・ラーニング研究会」を実施している。

(3) ベストクラスの選定・公表〔中期計画：12〕

授業は誰のものか，優れた授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒になって考えつつ，学生による授業評価に記載された肯定的な意見を参考に，平成 27 年度（平成 26 年度開講科目）から，毎年 10 科目程度のベストクラスを選定し，学内外に広く公表している。

（参考：これまでの選定科目数は延べ 61 科目）

(4) 授業公開・研究会の実施〔中期計画：02，05，12〕

個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に，教員相互の授業研究の場として，教員間での日常的な授業公開を行っている。また，教職員，全学生を対象に，ベストクラスに選定された授業の一つを公開し，授業後には，参加者間のディスカッションを通して，授業改善のアイディアや手法等の情報を共有する「授業研究会」を実施している。

これまでの取組の成果

上記 FD に関する活動（四本柱）に加え，平成 29 年度，令和元年度には課程ごとに，学生による授業評価からみた良い授業（自由記述）を分析のうえ，それを「授業改善の具体的指針」として整理し，構成員に対して，わかりやすさの構造や感動を作り出す授業の可能性を示唆した。

また，アクティブ・ラーニングの要素を持つ授業が本学でどの程度実施されているかの web 調査では，「聴く以上の関わり」は９割以上の授業で実施され，また，振り返り，グループワーク，学生によるプレゼンテーションは，授業区分に関わらず比較的取り入れられていることが可視化された。このことは，毎年度，テーマを変えて企画しているアクティブ・ラーニング研究会や授業公開・研究会の積み重ねによる成果でもあり，第３期中期計画で示された「学生の主体的な学修を組織的に推進するため，アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充する」を十分に達成していると評価できる。

さらに，授業の多様性を尊重しつつ選定している「ベストクラス」では，選定のための重要な資料となる授業評価項目を交流会のもとで改善したことで，自由記述の増加が確認された。

これらの良い取り組み（ベストクラス等）を全学で共有することは，授業改善に取り組んでいる教員への活動支援となっている。

本学は，以前から授業内容・方法の改善や向上に活発に取り組んでいるが，とりわけ FD 推進活動の方向性を定めるべく，平成 25 年度策定の「本学における FD の定義」を契機に，さらに様々な施策を通して，各構成員においてその意義と理解は徐々に定着している。

アクティブ・ラーニング研究会開催状況一覧

兵庫教育大学FD推進委員会

回	年月日		時間	内容	講師等	参加者数	場所	備考
1	H25.12.20	金	10:40～ 13:00	①授業公開 「教育方法学」 ②授業研究会	授業者： 伊藤博之講師 研究会講師： 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室　山田剛史准教授	46名	総合研究棟 オープンセミナールーム	履修者10名
2	H26.11.13	木	16:30～ 18:30	本学のFDの取り組みの概要と論点について 講演 「学生参画FDの課題等について」 「授業を支える知識観・学習観を問い直す―ディープ・アクティブラーニングの提案―」	説明者： 山中一英准教授（副委員長） 講師： 立命館大学教育開発推進機構　沖 裕貴教授 京都大学高等教育研究開発センター　松下佳代教授	49名	附属図書館 PAO	
3	H27.12.7	月	10:40～ 13:00	①公開授業 「生徒指導論（進路指導を含む。）」 ②授業研究会	授業者： 新井肇教授 研究会司会進行： 伊藤博之准教授	49名	教育子午線 ホール	履修者173名
4	H28.11.18	金	18:30～ 21:40	①公開授業 「教えと学びの哲学」（夜間クラス） ②授業研究会	授業者： 大関達也准教授 研究会司会進行： 宮元博章准教授	32名	神戸HLC兵教ホール	履修者13名
5	H28.12.8	木	10:40～ 13:00	①公開授業 「子ども理解と学級経営の心理学」（昼間クラス） ②授業研究会	授業者： 秋光恵子教授 研究会司会進行： 伊藤博之准教授	83名	教育子午線 ホール	履修者55名
6	H29.2.13	月	13:10～ 15:10	「兵庫教育大学の授業をどう考えるか」 ①基調報告 「学生による授業評価から見た良い授業とは～自由記述の分析から」 ②パネルディスカッション ・学生の立場から ・教員の立場から ・アクティブ・ラーニングの視点から	基調報告： FD委員長須田康之教授 パネルディスカッション コーディネーター：須田委員長 パネリスト： 院生2名、吉水裕也教授、山中一英准教授 司会：藤木裕一副課長	37名	総合研究棟 大会議室	
7	H29.7.24	月	13:10～ 15:40	①講演 「PBL導入の基本的な考え方と教員養成PBL教育の内容と方法」 ②ワークショップ	講師： 三重大学教育学部・地域人材教育開発機構 山田康彦教授 中西康雅准教授 司会：藤木裕一副課長	39名	総合研究棟 大会議室	
8	H29.11.1	水	14:50～ 16:20	授業について語り合うワークショップ 「探究心の火がともる授業！」 （ワールド・カフェ方式）	ファシリテーター： 宮元博章准教授	17名	附属図書館 PAO	
9	H29.12.1	金	9:00～ 12:10	①授業公開 「総合芸術表現研究」（昼間クラス） ②授業研究会	授業者： 初田隆教授、木下千代教授 研究会司会進行： 菅井三実教授	23名	芸術棟303号室	履修者18名
10	H30.6.21	木	10:40～ 13:00	①授業公開 「日本語の仕組みと言語教育」（昼間クラス） ②授業研究会	授業者： 菅井三実教授 司会：山中一英教授	17名 （履修者除く）	共通講義棟 204教室	履修者27名
11	H31.1.17	木	14:50～ 16:20	講演 「アクティブラーニング型反転授業 ―「わかったつもり」を「わかった」へ―」	講師： 関西大学教育推進部　森朋子教授 司会：宮脇浩和副課長	55名	総合研究棟 大会議室	
12	R1.7.4	木	10:40～ 13:00	①授業公開 「障害児医学特論」 ②授業研究会	授業者： 髙野美由紀教授 司会：松本　剛教授	25名	総合研究棟 大会議室	履修者34名
13	R2.1.27	月	13:10～ 14:45	講演 「アクションリサーチの魅力と課題」	講師： 京都大学防災研究所 矢守克也教授 司会：山中一英教授	55名	総合研究棟 大会議室	
14	R2.12.4	金	14:50～ 16:20	講演 「オンライン授業の先に何を見るか」	講師： 京都大学大学院教育学研究科　石井英真准教授	57名 （FDｻﾛﾝ19名）	Zoomによるオンライン形式	教員養成・研修高度化ｾﾝﾀｰ（FDﾃﾞｻﾞｲﾝﾁｰﾑ） Society5.0×Teacher Education研究会共催
15	R2.1.22	金	14:50～ 16:20	講演 「大学教育の継続的改善に向けたIRとFDの連動可能性」（仮題）	講師： 立命館大学教育開発機構 鳥居朋子教授	36名	Zoomによるオンライン形式	IR・総合戦略企画室、教員養成・研修高度化ｾﾝﾀｰ、FD推進委員会共催
16	R3.2.26	金	13:10～ 15:50	講演 「アクティブ・ラーニングを問い直す－オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性－」	講師： 国立教育政策研究所総括研究官　白水始氏	65名 （FDｻﾛﾝ20名）	Zoomによるオンライン形式	教員養成・研修高度化ｾﾝﾀｰ（FDﾃﾞｻﾞｲﾝﾁｰﾑ） Society5.0×Teacher Education研究会共催

ベストクラス選定科目一覧（平成27年度～）

課程	H27(H26開講科目)	H28(H27開講科目)	H29(H28開講科目)	H30(H29開講科目)	R1(H30開講科目)	R2(R1開講科目)
学部	社会の中の言語文化	教育課程論	初等図画工作科教育法（Ａクラス）	学習指導と学校図書館	初等音楽科教育法（Ｂクラス）	初等音楽科教育法（Ｂクラス）
	美術科教育法Ⅰ	教育方法学	哲学概説	自然地理学概説	学習指導と学校図書館	学習指導と学校図書館
	生徒指導論（進路指導を含む。）	解析学Ⅰ	初等社会科教育法（Ｃクラス）	初等算数科教育法（Ｂクラス）	初等社会Ⅰ（小Ｃ（大学院）クラス）	初等社会（小Ｃ（大学院）クラス）
	社会科教育法Ⅲ	－	－	学校心理学とカウンセリング	教育方法論	初等家庭科教育法（Ａクラス）
	体育・スポーツ文化論Ⅱ	－	－	－	養護の基本	国語学演習Ⅱ
	社会科教育法Ⅳ	－	－	－	－	教育方法学
大学院（修士課程）	視覚生理・病理（昼間クラス）	教えと学びの哲学（昼間クラス）	日本語の仕組みと言語教育（昼間クラス）	障害児医学特論	国語系教育内容論Ⅳ（古典語）（夜間クラス）	肢体不自由児指導論（昼間クラス）
	投映法演習（昼間・夜間クラス）	心理統計研究法演習（昼間クラス）	子どものメンタルヘルス（夜間クラス）	小学校授業実践英語演習Ⅰ（小学校英語活動プログラム）	行動障害支援論（昼間クラス）	教職員のストレスマネジメント（昼間クラス）
	英語教育コミュニケーション論（昼間クラス）	生徒指導と学校教育相談（昼間・夜間クラス）	総合芸術表現研究（夜間クラス）	子ども理解と学級経営の心理学（昼間クラス）	教育文化の歴史（夜間クラス）	教えと学びの哲学
	－	学級における人間関係の心理学（昼間クラス）	－	教職員のストレスマネジメント（昼間クラス）	－	児童文学から教材研究へ（昼間クラス）
大学院（専門職学位課程）	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際Ａ（昼間クラス）	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際Ａ	教員のための人権教育の理論と方法Ｂ（昼間クラス）	社会心理学に基づく学級経営の実践開発	人間的成長を促す教育の理論と実践Ａ（昼間クラス）	教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ（小学校英語）（昼間クラス）
	教職員職能開発と研修プログラムの開発（昼間クラス）	児童生徒を活かす学級経営の実践演習Ａ	円滑な学級経営のための力量形成（昼間クラス）	道徳教育諸理論と道徳の授業づくり	学校カリキュラムのデザインと推進体制（昼間クラス）	教科・領域の内容・指導法研究Ⅳ（理科）（昼間クラス）
	開かれた学校づくりの事例と実践演習（昼間クラス）	－	－	－	－	－

ベストクラス選定科目の授業公開参加者数一覧

アクティブ・ラーニング研究会	開催日	科目名	担当教員	参加者数計	参加者数　内訳					
					学内			学外		
					教員	事務職員	学生	教員	事務職員	その他
第1回	平成25年12月20日(金)	教育方法学	伊藤　博之	46	15	6	15	8	1	1
第3回	平成27年12月7日(月)	生徒指導論(進路指導を含む)	新井　肇	49	17	6	26	0	0	0
第4回	平成28年11月18日(金)	教えと学びの哲学(夜間クラス)	大関　達也	32	9	4	19	0	0	0
第5回	平成28年12月8日(木)	子ども理解と学級経営の心理学(昼間クラス)	秋光　恵子	83	18	5	60	0	0	0
－	平成29年6月2日(金)	児童生徒を活かす学級経営の実践演習A(昼間クラス)	山中 一英	15	11	4	0	0	0	0
－	平成29年6月5日(月)	教育課程論	伊藤 博之	6	4	2	0	0	0	0
－	平成29年7月3日(月)	特色あるカリキュラムづくりの理論と実際A(昼間クラス)	關 浩和	12	10	2	0	0	0	0
－	平成29年7月5日(水)	心理統計研究法演習(昼間クラス)	秋光 恵子	7	5	2	0	0	0	0
－	平成29年11月2日(木)	初等社会科教育法(Cクラス)	大西 慎也	10	8	2	0	0	0	0
－	平成29年11月16日(木)	円滑な学級経営のための力量形成(昼間クラス)	山中 一英 高尾一二三	6	4	2	0	0	0	0
－	平成29年12月11日(月)	教員のための人権教育の理論と方法B(昼間クラス)	山内 敏男 和田 幸司 岩本　剛	20	18	2	0	0	0	0
第9回	平成29年12月1日(金)	総合芸術表現研究(昼間クラス)	初田　隆 木下 千代	23	19	3	1	0	0	0
－	平成30年6月12日(火)	哲学概説	森　　秀樹	13	11	2	0	0	0	0
－	平成30年6月20日(水)	子どものメンタルヘルス(夜間クラス)	藤原 忠雄	9	6	3	0	0	0	0
第10回	平成30年6月21日(木)	日本語のしくみと言語教育(昼間クラス)	菅井 三実	17	14	3	0	0	0	0
－	平成30年11月28日(水)	教職員のストレスマネジメント(昼間クラス)	藤原 忠雄	6	3	3	0	0	0	0
－	平成30年12月13日(木)	子ども理解と学級経営の心理学(昼間クラス)	秋光 恵子	11	8	3	0	0	0	0
－	平成30年12月14日(金)	学校心理学とカウンセリング	藤原 忠雄	6	4	2	0	0	0	0
－	平成30年12月17日(月)	初等算数科教育法(Bクラス)	加藤 久恵	10	8	2	0	0	0	0
－	令和元年6月11日(火)	社会心理学に基づく学級経営の実践開発	竹西 亜古 他	11	6	5	0	0	0	0
第12回	令和元年7月4日(木)	障害児医学特論	髙野美由紀	25	14	5	6	0	0	0
－	令和元年7月11日(木)	学習指導と学校図書館	福原 優子	15	10	5	0	0	0	0
－	令和元年11月21日(木)	初等音楽科教育法(Bクラス)	八代 健志	12	7	5	0	0	0	0
－	令和元年12月10日(火)	教育方法論	安藤 福光	16	13	3	0	0	0	0
－	令和2年1月30日(木)	人間的成長を促す教育の理論と実践A	大関 達也 他	8	4	4	0	0	0	0

平成25年12月20日(金)実施分については公募により，その他についてはベストクラス選定授業から選ばれたものである。

第３期における取組のまとめ（中期計画０２、０５　FD推進委員会）

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	平成29年度 年度計画	平成30年度 年度計画	令和元年度 年度計画	令和２年度 年度計画
01　本学の学士課程では，第３期中期目標期間中に定めた教員養成スタンダードに基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し，深い教養に根ざし，実践力と人間性に優れた資質の高い新人教員を養成する。	02　学生の主体的な学修を組織的に推進するため，アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し，併せて，学生に能動的な学習指導法，及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また，学修時間の確保，シラバスの充実及び学修成果の可視化に取り組む。	02　アクティブ･ラーニングの定義について整理するとともに，授業の実態について調査を行い，その拡充策・計画を取りまとめる。	02　「アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査」の集計結果等を学内で共有するとともに，28年度にとりまとめたアクティブ・ラーニング等の拡充策に基づき，PBL等の研究会を実施する。また，実施した拡充策について，アンケートなどにより，その効果を検証する。	02　アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，学修時間の確保，シラバスの充実及び学修成果を可視化する方策を整備する。	02　アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，「クラスセミナーⅠ・Ⅱ」を中心に，アクティブ・ラーニングを取り入れた学生の主体的な学修を推進し，修得すべき資質や能力について学生自身に考えさせる。学修時間の確保を促す取組を行い，教育支援システムを活用した学修成果の可視化を行う。	02　・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策を引き続き実施し，これまでの取組の成果をまとめる。 ・学生の計画的な学修を促すため，シラバスに事前事後学修を明記し，学生の学修時間の確保に取り組む。 ・学修成果の評価の方針に基づき，学修成果の可視化にさらに取り組む。 ・ICT等新しい指導方法を取り入れた授業に取り組む。
02　本学の修士課程では，我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに，教員養成スタンダード（大学院）に基づいた，より実践的な教育課程を編成し，実践的課題解決に資する研究指導体制を構築することにより，高度専門職業人としての教員を養成する。また，学校教育分野の心理専門職を養成する。	05　学生の主体的な学修を組織的に推進するため，アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充し，併せて，学生に能動的な学習指導法，及びそれを通して育成すべき資質・能力とは何かを修得させる。また，教員養成スタンダード（大学院）に示された資質・能力の観点から授業内容・方法を見直し，シラバス改善，学修成果の可視化に取り組む。	05　アクティブ･ラーニングの定義について整理するとともに，授業の実態について調査を行い，その拡充策・計画を取りまとめる。	05　「アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査」の集計結果等を学内で共有するとともに，28年度にとりまとめたアクティブ・ラーニング等の拡充策に基づき，PBL等の研究会を実施する。また，実施した拡充策について，アンケートなどにより，その効果を検証する。	05　アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，シラバス改善，学修成果を可視化する方策を整備する。	05　アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に取り組む。また，高度専門職業人としての資質や能力が育成されているか，学修成果の可視化に取り組むとともに，課題を整理する。	05　・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策を引き続き実施し，これまでの取組の成果をまとめる。 ・学修成果の評価の方針に基づき，学修成果の可視化にさらに取り組む。 ・ICT等新しい指導方法を取り入れた授業に取り組む。
取組の概要		・アクティブ・ラーニングの定義について、先行研究等の収集、検討及び整理を行った。これを基に調査項目を作成して本学の授業の実態調査を実施、分析を行った。 ・調査結果の分析を基に、アクティブ・ラーニングの拡充策、計画をとりまとめた。 ①ベストクラスに選定された授業の公開 ②授業について語り合うワークショップの開催促進 ③PBLや反転授業に関する研究会の実施 また、これらの取組について、教員は１回は参加するするものとし、授業改善の意識化を促すこととした。	・28年度に実施した、アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査の集計結果を全学教職員会議で報告し全教職員で共有した。また、会議資料及び調査結果報告書を学内で共有するため、本学webサイトに掲載した。 ・アクティブ・ラーニング拡充策の実施。 ①ベストクラス選定科目の授業公開（前期4科目、後期4科目） ②PBLに関する研究会を三重大学から講師を招いて実施。 ③授業について語り合うワークショップを開催 ④ベストクラス選定科目の一つについて、授業公開と授業研究会を実施 ⑤他大学等主催のFD研修会への案内周知 ⑥FD活動への学生参画を促進 ・各拡充策の実施時に行ったアンケートでは、全体的に肯定的な高評価意見が多かったことから、次年度も拡充策を継続して実施することとした。	アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充への取組を実施。 ①ベストクラス選定科目の授業公開（前期3科目、後期4科目） ②アクティブ・ラーニング研究会の実施。反転授業に関する研究会を関西大学から講師を招いて実施した。 また、28年度に実施した授業実態調査を再度行い、アクティブ・ラーニングの実施状況について把握した。 調査結果については、全学で共有するため、本学webサイトに掲載した。	アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充への取組を実施。 ①ベストクラス選定科目の授業公開（前期3科目、後期3科目） ②アクティブ・ラーニング研究会の実施。アクション・リサーチに関する研究会を外部講師を招いて実施した。	・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策の実施 ①アクティブ・ラーニング研究会を，教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）等との共催により，外部講師を招聘してWeb形式により計３回実施した。 ②学生・教職員FD活動交流会で，令和元年度開講のベストクラスを12科目選定し，10月の研究科教授会で共有するとともに,選定理由書を添えて学内Webサイトに公開した。なお，当初計画していたベストクラス選定科目の授業公開・研究会については，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，本年度は実施しないこととした。 ③ベストクラス候補の選定を行った学生・教職員FD活動交流会において，選定方法等について意見交換を行うとともに，FD推進委員会において，ベストクラスのよりよい選定のあり方等について審議を行い，今後の方向性を検討した。 ・これまでの取組の成果まとめ ①アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充策について，これまでの取組をまとめ，取組の成果や今後の方向性についてFD推進委員会（第3回）において審議を行った。
得られた成果	アクティブ・ラーニングの授業形態や授業方法の拡充を図ることで、学生の主体的な学修の推進に繋げることができた。	・アクティブ・ラーニングに関する授業実態調査を学内で共有したこと及びFD推進委員会が主催する研究会等へ1回は参加することにより、教員の授業改善の意識を高め、中期計画にある「学生の主体的な学修を組織的に推進するため、アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法を拡充」に繋げることができた。 ・アンケート結果から、本年度実施したFD活動が評価され、今後のFD活動の企画、実施の参考となった。	FD推進委員会が主催する研究会等へ教職員・学生が参加することにより、教員の授業改善の意識を高め、中期計画にある学生の主体的な学修を組織的に推進することに繋げられた。	・教員の授業改善の意識を高め、中期計画にある学生の主体的な学修を組織的に推進することに繋げられた。 ・アクティブ・ラーニング等の授業形態や授業方法の拡充に繋がった。	アクティブ・ラーニング研究会等の授業形態や授業方法の拡充策を実施することにより、教員の授業改善の意識を高め、学生の主体的な学修の推進につなげることができた。また、これまでの取組の成果をまとめることで、今後の方向性が見いだせた。
根拠となる資料	・「平成２８年度の年度計画の実施について」（平成２８年度ＦＤ推進委員会活動報告書）	・平成２９年度ＦＤ推進委員会活動報告書 ・アンケート結果	・平成３０年度ＦＤ推進委員会活動報告書	・令和元年度ＦＤ推進委員会活動報告書 （授業公開一覧（前期・後期）、アンケート集計結果） （アクティブ・ラーニング研究会の実施結果、アンケート集計結果） ・アクティブ・ラーニング研究会チラシ	・FD推進委員会活動報告書（令和2年度）（ベストクラス選定結果一覧，教育改善への取り組み（FD活動）/令和2年度まとめ，第3回学生・教職員FD活動交流会記録メモ） ・FD推進委員会（令和2年度第3回）議事要旨

第３期における取組のまとめ（中期計画０３、０６　FD推進委員会）

中期目標	中期計画	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度
		年度計画	年度計画	年度計画	年度計画	年度計画
01　本学の学士課程では，第２期中期目標期間中に定めた教員養成スタンダードに基づき教員養成教育の継続的な充実・発展に資する先進的な教育課程を編成し，深い教養に根ざし，実践力と人間性に優れた資質の高い新人教員を養成する。	03　厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに，学生による授業評価の結果の分析を行い，授業改善の具体的指針を明確化する。また，卒業認定については，新人教員としての資質や能力を着実に育成する観点から，ディプロマ・ポリシーに従って，卒業判定基準に基づき厳密に行う。	03　学生による授業評価の結果を分析するとともに，教育改善推進室と連携して，成績評価の客観性，厳格性を担保するための課題を整理し，授業改善の具体的指針案を作成する。	03　28年度に作成した授業改善の具体的指針案を明確化し，各教員に改善を促す。	03　厳格な成績評価を行うため評価方法を見直す。また，平成31年度に開設する新教育課程のディプロマ・ポリシーに従った卒業認定について，課題を整理する。	03　ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性を吟味し，学修成果の評価の方針を明示する。それをもとに厳格な卒業判定基準により卒業認定を行う。 　これまでの実績を踏まえ，授業改善の具体的指針を定める。学生による授業評価や教員の授業についての意見交換を通して，組織的な授業改善活動を推進する。	03 ・引き続き，厳格な成績評価を行うため，シラバスの成績評価の方法・観点をより明確にし，成績評価の妥当性や客観性，透明性を高める。 ・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って，授業改善を組織的に推進する。
02　本学の修士課程では，我が国の学校教育において必要とする教科指導力の在り方を踏まえるとともに，教員養成スタンダード（大学院）に基づいた，より実践的な教育課程を編成し，実践的課題解決に資する研究指導体制を構築することにより，高度専門職業人としての教員を養成する。また，学校教育分野の心理専門職を養成する。	06　厳格な成績評価を行うため評価方法を見直すとともに，学生による授業評価の結果と教員養成スタンダード（大学院）の観点から，授業改善の具体的指針を明確化する。また，修了認定については，教育に関連する質の高い人材を育成する観点から，ディプロマ・ポリシーに従って見直し，厳格化した修了判定基準に基づき厳密に行う。	06　学生による授業評価の結果を分析するとともに，教育改善推進室と連携して，成績評価の客観性，厳格性を担保するための課題を整理し，授業改善の具体的指針案を作成する。	06　28年度に作成した授業改善の具体的指針案を明確化し，各教員に改善を促す。	06　平成29年度に評価項目を見直した学生による授業評価を実施し，評価方法等の検証を学生参画のもとで行う。 また，ディプロマ・ポリシーに従った修了認定について，課題を整理する。	06　ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーとの整合性を吟味し，学修成果の評価の方針を明示する。それをもとに厳格な修了判定基準により修了認定を行う。 　これまでの実績を踏まえ，授業改善の具体的指針を定める。学生による授業評価や教員の授業についての意見交換を通して，組織的な授業改善活動を推進する。	06 ・引き続き，厳格な成績評価を行うため，シラバスの成績評価の方法・観点をより明確にし，成績評価の妥当性や客観性，透明性を高める。 ・令和元年度に定めた授業改善の具体的指針に沿って，授業改善を組織的に推進する。
取組の概要		ＦＤ推進委員会のもとに、年度計画検討ＷＧを設置し、学生による授業評価結果の分析を行った。 　平成26年度及び27年度の学生による授業評価における評価の高い授業の自由記述について分析を行い、良い授業に共通する要素をカテゴリー化して整理を行った。 　また、整理した「良い授業」に共通する要素について、第６回アクティブ・ラーニング研究会で報告を行うとともに、平成28年度FD推進委員会活動報告書に掲載して、授業改善のための指針案とした。	・FD推進委員会において授業評価項目の改訂を行い、28年度に作成した授業改善の具体的指針案を念頭に検討を重ね、最終的に15項目を策定した。授業改善の具体的指針案を授業評価項目の形で明確化した。 ・ベストクラスに選定された科目を「よい授業」の指針とするため、前期4科目、後期4科目の授業公開を行った。 ・改訂した授業評価項目を授業改善の指針とするため、次年度の授業評価から使用する際に各教員の授業改善への意識化を促す。	平成29年度に評価項目を見直した学生による授業評価を実施した。また，実施した学生による授業評価の結果を集計し，授業担当教員へフィードバックするとともに，大学Webサイトにて学内で共有した。 見直しした評価項目で学生による授業評価の検証を，学生・教職員FD活動交流会にて実施した。	・学生による授業評価の自由記述から評価される授業の要素をカテゴリー化し，分析する作業を，FD推進委員会委員が分担して行い，「授業改善の具体的指針」を更新し，教員へ授業改善に活用するよう依頼した。 ・学生による授業評価の実施（前期・後期） 　実施結果を教員にフィードバックするとともに，学内Webサイトで公表。 ・ベストクラス選定科目の授業公開 　前期3科目，後期3科目を実施し，のべ87名が参加した。 　前期授業公開のうち1科目は，授業に続いて授業研究会（アクティブ・ラーニング研究会）を実施し，25名が参加した。 ・アクティブ・ラーニング研究会を実施 　昨年の調査で要望のあったアクション・リサーチに関する研究会を外部講師を招いて実施予定し，55名（他大学等教育関係者5名含む）が参加した。	FD推進委員会において，授業改善を組織的に推進するため，以下の取組を行った。 ・学生による授業評価の実施（前期・後期） 　新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，令和２年度の授業評価を前期・後期ともWebアンケート形式により実施した。Webアンケートの結果について，FD推進委員会で精査，分析を行い，後期は評価項目の一部を改正した上でWebアンケートを実施した。また，Webアンケートの集計結果については，授業担当教員にフィードバックして個々の授業改善に資するとともに，学内Webサイトに公開する。 ・アクティブ・ラーニング研究会の実施 　令和2年度のアクティブ・ラーニング研究会は，教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）等との共催により，外部講師を招聘してWeb形式により計3回実施した。 ・ベストクラスの選定・共有 　学生・教職員FD活動交流会で，令和元年度開講のベストクラスを12科目選定し，10月の研究科教授会で共有するとともに，選定理由書を添えて学内Webサイトに公開した。
得られた成果	評価の高い授業を分析して良い授業に共通する要素を整理し、授業改善のための具体的な指針案を作成したことにより、大学全体の授業改善につながった。	授業評価項目の改訂版が授業改善の指針となり、個々の授業改善や大学全体の教育力向上に結びついた。 また、各教員が授業改善を意識化することにより、大学全体の教育力の向上につながった。	見直しした評価項目で学生による授業評価を実施したことで，全学的なFD活動の推進を強化し，より本学の教育の質向上や改善に結びつくことが期待できる。 授業評価方法等の検証を学生参画のもとで行うことにより，より詳しく，学生目線で授業改善ができ，より具体的な項目に沿って教育力向上に繋がった。	・教員が授業改善を意識化することにより，教育の質保証と教育力向上に繋がった。 教員の授業改善の意識を高め，資質の高い新人教員養成に繋げた。	全学的なFD活動を推進することにより、教員の授業改善の意識を高め、本学の教育の質の向上や改善に繋げることができた。
根拠となる資料	授業改善の具体的指針（案）	授業評価票改訂版、平成29年度FD推進委員会活動報告書、ベストクラス選定科目の授業公開一覧表	・「学生による授業評価」実施結果 ・「学生・教職員FD活動交流会」議事要旨	・授業改善の具体的指針 ・FD推進委員会活動報告書（令和元年度） （「学生による授業評価」実施結果） （授業公開一覧（前期・後期），アンケート集計結果） （アクティブ・ラーニング研究会の実施結果，アンケート集計結果） ・アクティブ・ラーニング研究会チラシ	・FD推進委員会活動報告書（令和2年度）（「学生による授業評価」実施結果，授業評価Webアンケート項目一覧，アクティブ・ラーニング研究会実施結果，受講者アンケート結果，ベストクラス選定結果一覧）

第３期における取組のまとめ（中期計画１２　FD推進委員会）

中期目標	中期計画	平成28年度 年度計画	平成29年度 年度計画	平成30年度 年度計画	令和元年度 年度計画	令和２年度 年度計画
12　教員養成の高度化を志向する教育の実施体制として，教員の適切な人的配置を行い，質の高い教育の成果を保証する教育改善システムを構築するとともに教育環境を充実させる。	12　教育活動に対する評価結果を教育の質の向上や改善に結びつけるため，ファカルティ・ディベロップメント推進委員会を中心とした組織的取組により，ベストクラスの選定，教員養成スタンダードのカリキュラムマップの改善等，全学的なファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。	12　27年度から開始したベストクラスの選定において，評価の高い授業の分析を進め，「良い授業」に共通する要素を整理する。	12　28年度の調査結果等に基づき、全学的なFD活動の推進を強化するため、全学で統一した授業評価方法を開発する。	12　平成29年度に開発した授業評価方法により全学で統一した授業評価を実施し，ベストクラス選定等の全学的なFD活動を引き続き推進する。	12　学生・教職員のFD活動交流会においてベストクラスの選定を行い，評価される授業の要素を学内教員に公表し，授業改善に活用させる。ベストクラスに選定された授業を学内外に公開し，アクティブ・ラーニングに関する研究会を学外者も対象として開催する。	12 ・大学教員の体系的育成プログラムを作成する。 ・ベストクラス選定，学生による授業評価，アクティブ・ラーニング研究会等の全学的なＦＤ活動を推進する。
取組の概要		教職協働による年度計画検討ＷＧ（教員4人，事務職員1人）をＦＤ推進委員会のもとに設置して，ＷＧを7回開催し検討を行った。 ＷＧにおいては，平成26年度及び27年度のベストクラス選定において使用した，学生による授業評価において評価が高い授業の自由記述の分析を行い，学部，大学院の課程ごとに「良い授業」に共通する要素を抽出して３段階のカテゴリーに分類して整理を行った。 この整理した「良い授業」に共通する要素については，第6回アクティブ・ラーニング研究会において報告を行い，「良い授業」について，大学全体で考える機会を設けた。 なお，28年度は計3回(第4回～第6回)アクティブ・ラーニング研究会を開催し,第4回及び第5回は，ベストクラスに選定された授業のうち各1科目について授業公開及び授業研究会を実施し，「良い授業」について考える機会とした。3回開催したアクティブ・ラーニング研究会には，合計152人が参加した。	①FD推進委員会のもとに年度計画検討ＷＧを設置し、ＷＧを４回開催、全学で統一した授業評価について、評価項目及び評価方法の検討を行った。 ②FD推進委員会を６回開催し、授業評価票改訂版の原案を作成した。 ③原案作成までの検討内容、検討状況は以下のとおり。 ・学部、修士課程及び専門職学位課程の全ての授業科目で統一した ・学生・教職員FD活動交流会を開催して、学生の意見を聴取した。 ・28年度に行った、優れた授業の分析結果に基づいた項目の検討。 ・ベストクラスの理念に沿うよう、学生の授業への取り組み姿勢を問う項目を検討。 ・現在異なった評価を実施している教育実践高度化専攻においても検討を行った。 ④FD推進委員会で作成した評価項目の原案について、各委員が所属する専攻会議において教員の意見を聴取した。 ⑤評価項目は最終的に15項目とし、全学で統一した授業評価票改訂版を策定した。30年度から、本学の全授業科目について同一の授業評価票及び授業評価方法により、学生による授業評価を実施することとした。	平成29年度に開発した全課程を対象とした，統一された授業評価票及び授業評価方法で授業評価を実施した。また，実施した学生による授業評価の結果を集計し，授業担当教員へフィードバックするとともに，大学Webサイトにて学内で共有したことで，教育の質の向上及び改善に一助となった。 また，学生参画のもとで，授業評価方法等の検証を実施し，意見を取りまとめた。	・平成30年度開講科目の学生による授業評価結果を参考に，学生参画の下，ベストクラスの候補を選出し，授業担当教員及び受講生に対してインタビューを実施し，ベストクラスを10科目選定した。 ・学生による授業評価を実施し，その集計結果を授業担当教員へフィードバックするとともに，学内のWebサイトで公表した。 ・評価される授業の要素を学内教員に公表するため，学生による授業評価から良い授業の要素をカテゴリー化し，分析する作業をFD推進委員会委員が分担して行い，「授業改善の具体的指針」を更新した。 ・評価される授業の要素を「授業改善の具体的指針」としてまとめ，学内教員へ公表し，授業改善に活用するよう依頼した。	全学的なFD活動を推進するため，FD推進委員会において，以下の取組を行った。 ・ベストクラスの選定，公開 学生・教職員FD活動交流会においてベストクラス候補12科目を選定し，FD推進委員会で全12科目を正式にベストクラスに決定した。決定したベストクラスについては，10月の研究科教授会で共有するとともに，選定理由書を添えて本学webサイトに公開した。 なお，ベストクラスの授業公開については，新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，本年度は実施しないこととした。 ・学生による授業評価の実施（前期・後期） 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から，令和２年度の授業評価を前期・後期ともWebアンケートにより実施した。Webアンケートの結果については，FD推進委員会で精査，分析を行い，後期は評価項目の一部を改正した上でWebアンケートを実施した。また，Webアンケートの集計結果については，授業担当教員にフィードバックして個々の授業改善に資するとともに，学内Webサイトに公開する。 ・アクティブ・ラーニング研究会の実施 令和2年度のアクティブ・ラーニング研究会は，教員養成・研修高度化センター（FDデザインチーム）等との共催により，外部講師を招聘してWeb形式により計3回実施した。 また，教職実践演習専門部会において，「教職実践演習」（事例研究，模擬授業，模擬保育及びまとめ[学びの総括]）にかかる学生による授業評価を実施した。
得られた成果		「良い授業」に共通する要素について整理したものを学内に発信し，「良い授業」について，大学全体で考える機会を提供することにより，本学の教育の質向上や改善に結びつけることができた。	全学で統一した授業評価方法を開発、実施することにより、全学的なFD活動の推進を強化し、本学の教育の質向上や改善に結びつけることができた。	全学で統一した授業評価票及び授業評価方法により実施したことで，全学的なFD活動の推進を強化し，より本学の教育の質向上や改善に結びつけることができた。	教員の授業改善を推進し教育の質の向上に繋がった。	全学的なFD活動を推進することにより、教員の授業改善の意識を高め、本学の教育の質の向上や改善に繋げることができた。
根拠となる資料		・「平成28年度の年度計画の実施について」（平成28年度FD推進委員会活動報告書）	・授業評価票の改訂版 ・平成29年度FD推進委員会活動報告書	・「学生による授業評価」実施結果	・FD推進委員会活動報告書（令和元年度） （授業改善の具体的指針） （ベストクラス選定結果） （「学生による授業評価」実施結果）	・FD推進委員会活動報告書（令和2年度）（ベストクラス選定結果一覧，令和2年度「学生による授業評価」実施結果，授業評価Webｱﾝｹｰﾄ項目一覧，受講者アンケート結果）

２．Web アンケート形式による授業評価実施

令和２年７月１４日

授業担当教員　各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長

令和２年度前期「学生による授業評価」の実施について

標記のことについて、**毎年度、学部及び大学院修士課程・専門職学位課程の全授業科目について実施**することとなっております。

今年度前期の学生による授業評価は、新型コロナウィルス感染症の影響により、例年のマークカード方式でなく、Ｗｅｂアンケートにて実施することになりました。授業担当教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映を行い、そこから学生自身が該当科目のアンケートにアクセスして回答するというものです。

つきましては、該当の授業科目のＵＲＬ及びＱＲコードを別添のとおり送付しますので、次の手順により**各授業の終盤で調査を実施**していただきますようお願いいたします。

なお、授業評価の集計結果（数値）については、授業科目ごとに、あらかじめ授業担当教員に結果を周知し、必要に応じて授業担当教員のコメント等を付記した上で公開することとなっておりますので、お含みおき願います。

（実施にあたっての留意事項）

複数担当の授業科目のＵＲＬ、ＱＲコードは、シラバス記載の筆頭教員に送付しております。お手数ですが、授業評価実施時点の担当教員に転送願います。

（ＵＲＬ、ＱＲコードの配付及び実施の手順）

１．Ｗｅｂアンケートは教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映をしてください。その際、項目⑬「（※複数教員担当科目のみ対象）授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び項目⑭「（※大学院授業科目のみ対象）「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」への回答について、各授業の実施内容等により、回答の要否を学生にご指示願います。

２．次の諸点を学生に周知してください。

① この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。

② 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

③ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

④ 自由記述欄に記入した「良かった点」については、「ベストクラス」選定の参考となること。

３．学生自身でＵＲＬまたはＱＲコードを読み取り、授業終了（既に終了している授業についてはＵＲＬ等通知後）から原則１週間以内に設問に回答するよう、要請してください。

以　上

令和２年度前期授業評価　Ｗｅｂアンケート項目一覧

①　この授業は、目的が明確であり、それにふさわしい内容だった。
②　授業計画（シラバス）は学習する上で役立った。
③　成績評価の基準・手続きが示された。
④　教員の説明は、わかりやすかった。
⑤　テキスト・プリント等、教材・教具は役立った。
⑥　教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。
⑦　教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。
⑧　教員の熱意や丁寧な対応が感じられた。
⑨　人権、安全への配慮がなされていた。
⑩　私は、授業を構成する一員であるという自覚をもって授業に臨んだ。
⑪　私は、この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。
⑫　私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。
⑬　（※複数教員担当科目のみ対象）
　授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。
⑭　（※大学院授業科目のみ対象）
　「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。
⑮　オンラインのメリットが活かされた授業だった。
⑯　この授業に集中して取り組むことができた。
⑰　この授業で提示された課題の量は適切であった。

①～⑰の選択肢
　４：そのとおり
　３：ほぼそのとおり
　２：あまりそうではない
　１：そうではない

⑱　毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。
　４：３時間以上
　３：２時間程度
　２：１時間程度
　１：３０分未満

※⑮～⑰が令和２年度前期より追加された項目。

令和３年１月１３日

授業担当教員　各位

ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員長

令和２年度後期「学生による授業評価」の実施について（依頼）

標記のことについて、**毎年度、学部及び大学院修士課程・専門職学位課程の全授業科目について実施**することとなっております。

今年度後期の学生による授業評価は、前期同様、新型コロナウィルス感染症の影響により、例年のマークカード方式でなく、Ｗｅｂアンケートにて実施することになりました。授業担当教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映を行い、そこから学生自身が該当科目のアンケートにアクセスして回答するというものです。

つきましては、該当の授業科目のＵＲＬ及びＱＲコードを別添のとおり送付しますので、次の手順により**各授業の終了後または終盤で実施**していただきますようお願いいたします。

なお、授業評価の集計結果（数値）については、授業科目ごとに、あらかじめ授業担当教員に結果を周知し、必要に応じて授業担当教員のコメント等を付記した上で公開することとなっておりますので、お含みおき願います。

（実施にあたっての留意事項）

複数担当の授業科目のＵＲＬ、ＱＲコードは、シラバス記載の筆頭教員に送付しております。お手数ですが、授業評価実施時点の担当教員に転送願います。

（ＵＲＬ、ＱＲコードの配付及び実施の手順）

１．Ｗｅｂアンケートは教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映をしてください。その際、項目⑬「（※複数教員担当科目のみ対象）授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び項目⑭「（※大学院授業科目のみ対象）「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」への回答について、各授業の実施内容等により、回答の要否を学生にご指示願います。

２．次の諸点を学生に周知してください。

① この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し、授業の改善を行うために実施するものであること。

② 成績に影響することは全くないので、授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

③ １科目につき１回だけ回答すること。

④ ＱＲコードまたはＵＲＬを読み込んだ後に表示される科目名を必ず確認すること。

⑤ 複数の教員が分担をしている授業は、授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は、自由記述欄に記入すること。

⑥ 自由記述欄に記入した「良かった点」については、「ベストクラス」選定の参考となること。

３．学生自身でＵＲＬまたはＱＲコードを読み取り、授業終了後（既に終了している授業についてはＵＲＬ等通知後）から原則１週間以内に設問に回答するよう、要請してください。

令和２年度後期授業評価　Ｗｅｂアンケート項目一覧

あなたの所属を選択してください。
　学部　／　現職（大学院）　／　現職以外（大学院）　／　科目等履修生　／　特別聴講生
この授業に２／３以上出席しましたか。
　はい　／　いいえ
この授業の形態は、次のどれにあてはまりますか。
　対面　／　オンライン　／　ハイブリッド（対面とオンラインの併用）
①　この授業は、目的が明確であり、それにふさわしい内容だった。
②　授業計画（シラバス）は学習する上で役立った。
③　成績評価の基準・手続きが示された。
④　教員の説明は、わかりやすかった。
⑤　テキスト・プリント等、教材・教具は役立った。
⑥　教員は、学生の参加をうながすため、適切な授業方法を工夫していた。
⑦　教員は、学生が質問や意見を述べられるよう配慮していた。
⑧　教員の熱意や丁寧な対応が感じられた。
⑨　人権、安全への配慮がなされていた。
⑩　私は、授業を構成する一員であるという自覚をもって授業に臨んだ。
⑪　私は、この授業からものの見方や考え方について知的刺激を受けた。
⑫　私は、事前準備をして授業に臨み、授業内容を振り返り、自ら理解を深める努力をした。
⑬　（※複数教員担当科目のみ対象）
　授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。
⑭　（※大学院授業科目のみ対象）
　「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。
　（※⑮～⑰は、オンライン、ハイブリッド授業のみ対象）
⑮　オンラインのメリットが活かされた授業だった。
⑯　この授業に集中して取り組むことができた。
⑰　この授業で提示された課題の量は適切であった。

　①～⑰の選択肢
　　４：そのとおり
　　３：ほぼそのとおり
　　２：あまりそうではない
　　１：そうではない

⑱　毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。
　４：３時間以上
　３：２時間程度
　２：１時間程度
　１：３０分未満

※自由記述欄についてはこれまでと同様の形式。

教育実践高度化専攻　大学院生のみなさんへ

FD 推進委員会委員長　山中　一英

実習科目の授業評価について（お願い）

日頃より，本学の FD 活動にご協力いただきありがとうございます。

実習科目の授業評価を，Office365 Forms のウェブアンケート形式により実施します。回答は一括して統計的に処理され，個人が特定されることはありません。また，回答が成績に影響することはけっしてありません。実習科目について感じたことを率直にお答えください。実習科目の改善にご協力をお願いします。

つきましては，以下の手順で Office365 Forms から今年度履修した（している）実習科目の授業評価に回答してください。

手　　順：

①以下の URL をクリック

・１科目目

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=8xr6Sc5uKkqdsLQM3Zpb0P6CmopcfqhAv0fyusJCS2RUMVA4Rk8wQ0QxTVVCNDBRT01NTVM1R1ZPQS4u

②学籍番号のメールアドレス及びパスワード入力のうえ，ログイン

（回答にはログインが必要なため学籍番号メールアドレスの入力を求めますが，回答者を特定することはありません。）

③順に従って回答のうえ，送信

※実習科目を２科目以上履修している場合は、以下の URL からそれぞれ回答してください。

・２科目目

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=8xr6Sc5uKkqdsLQM3Zpb0P6CmopcfqhAv0fyusJCS2RUMVlKTFRXVEowTUdVMTgzQzQ3UTU0TTRKRS4u

・３科目目

https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=8xr6Sc5uKkqdsLQM3Zpb0P6CmopcfqhAv0fyusJCS2RUMjJLSE9MVzU5QlZJN1c2WFlSTDdQNUFKOS4u

回答期限：令和３年３月５日（金）

所要時間：１科目につき約３分（１７問程度）

担　　当：学務課教務企画チーム

Mail　：office-kkikaku-t@ml.hyogo-u.ac.jp

Tel　：0795-44-2356

教職大学院実習科目授業評価項目

質問　　応答

兵庫教育大学教職大学院実習科目授業評価【１科目目】

回答は一括して統計的に処理され，個人が特定されることはありません。また，回答が成績に影響することはけっしてありません。実習科目について感じたことを率直にお答えください。実習科目の授業の改善にご協力をお願いします。

兵庫教育大学ＦＤ推進委員会

1. 学年を選んでください。 *

- Ｐ１
- Ｐ２
- Ｐ３

2. 現職、ストレートの別を選んでください。 *

- ストレート
- 現職教員

3. コースを選んでください。 *

- 学校経営コース
- 学校臨床科学コース
- 言語系教科マネジメントコース
- 社会系教科マネジメントコース
- 理数系教科マネジメントコース
- 小学校教員養成特別コース
- グローバル化推進教育リーダーコース
- 教育政策リーダーコース

4. 【学校経営コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校経営専門職インターンシップ
- 教育行政専門職インターンシップ

5. 【学校臨床科学コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校臨床科学基盤実習
- 学校臨床科学開発・改善実習

6. 【言語系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校教育基盤実習
- 教科指導力向上実習

7. 【社会系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校教育基盤実習
- 教科指導力向上実習

8. 【理数系教科マネジメントコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校教育基盤実習
- 教科指導力向上実習

9. 【小学校教員養成特別コース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 実地研究Ⅰ（基本実習）
- 実地研究Ⅱ（発展実習）
- 実地研究リフレクションセミナー
- インターンシップ

10. 【グローバル化推進教育リーダーコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 学校教育基盤実習
- グローバル教育実践実習
- グローバル教育開発実習

11. 【教育政策リーダーコース】回答する実習科目を選んでください（あなたが今年度履修した科目について１つずつ回答します）。 *

- 教育政策トップリーダーインターンシップI（海外教育行政機関）
- 教育政策トップリーダーインターンシップII（自自治体行政機関）

12. 実習に際して、コースでの事前指導（オリエンテーション、アドバイス、情報提供、実習校との調整等）は、実習の効果的な実施に役立った。 *

- ４．そのとおり
- ３．ほぼそのとおり
- ２．あまりそうではない
- １．そうではない

13. 私は、実習に際して、自分自身の事前の準備（課題の焦点化、内容やスケジュールの検討、実習校との事前打合せ等）を適切に行うことができた。 *

- ４．そのとおり
- ３．ほぼそのとおり
- ２．あまりそうではない
- １．そうではない

14. 実習の内容や進め方は、実習目的を達成するのにふさわしいものだった。 *

- ４．そのとおり
- ３．ほぼそのとおり
- ２．あまりそうではない
- １．そうではない

15. 私は、実習での経験をその都度振り返り、理解を深める努力をした。 *

- ４．そのとおり
- ３．ほぼそのとおり
- ２．あまりそうではない
- １．そうではない

16. 私は、実習を通して、ものの見方や考え方について知的刺激を受けた。 *

- ４．そのとおり

- ○ 3．ほぼそのとおり
- ○ 2．あまりそうではない
- ○ 1．そうではない

17. 実習先での受け入れ（メンターの指導等）は、実習目的を達成するのにふさわしいものだった。 *

- ○ 4．そのとおり
- ○ 3．ほぼそのとおり
- ○ 2．あまりそうではない
- ○ 1．そうではない

18. 大学からの支援（教員訪問や中間報告会等）は、実習目的を達成するのに役立った。 *

- ○ 4．そのとおり
- ○ 3．ほぼそのとおり
- ○ 2．あまりそうではない
- ○ 1．そうではない

19. 実習の期間や時期は、実習目的を達成するのに適切なものだった。（小学校教育養成特別コースの方は，回答の必要はありません） *

- ○ 4．そのとおり
- ○ 3．ほぼそのとおり
- ○ 2．あまりそうではない
- ○ 1．そうではない

20. 実習は、大学院での授業科目で学んだ成果を統合できるものだった。 *

- ○ 4．そのとおり
- ○ 3．ほぼそのとおり
- ○ 2．あまりそうではない
- ○ 1．そうではない

21. 実習は、修了時に提出する「教育実践研究報告書」（もしくは「特定の課題についての学修の成果」）の充実に役立った。 *

- ○ 4．そのとおり
- ○ 3．ほぼそのとおり

2．あまりそうではない

1．そうではない

22. 実習は、将来、教員（教育専門職）としての資質・能力の開発に役立ちそうだ。 *

4．そのとおり

3．ほぼそのとおり

2．あまりそうではない

1．そうではない

23. 実習は、統合的にみて満足のいくものだった。 *

4．そのとおり

3．ほぼそのとおり

2．あまりそうではない

1．そうではない

24. その他、実習について意見があれば、記入してください。

回答を入力してください

＋ 新規追加

３．令和２年度「学生による授業評価」実施結果

【令和２年度　前期「学生による授業評価」実施結果】

１．実施時期

７月１４日～１１月２５日まで

（７月１４日以前に終了している授業については，ＵＲＬ等通知後から原則１週間以内に授業評価の実施を依頼。）

２．実施方法

(1)新型コロナウィルス感染防止の観点から，前期の授業がオンラインで行われたため，前期授業評価をＷｅｂアンケート形式により実施。

(2)Ｗｅｂアンケート形式の授業評価のＵＲＬ，ＱＲコードの配布及び実施の手順は，次のとおり。

・各授業の終盤で，授業担当教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映を行う。

・学生自身でＵＲＬまたはＱＲコードを読み取り，設問に回答する。

(3)次の点を学生に周知し，実施する。

・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し，授業の改善を行うために実施するものであること。

・成績に影響することは全くないので，授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

・複数の教員が分担をしている授業は，授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は，自由記述欄に記入すること。

・項目⑬「授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び項目⑭「「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」への回答の有無については教員の指示に従うこと。

３．調査結果の活用

集計結果については，教員にフィードバックし，授業の内容・方法等の改善に活かすとともに，必要に応じて教員のコメント等を付記し，個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

４．実施結果（最終集計結果）

対象科目数	399
実施科目数	396
未実施科目数	3
実施科目割合	99.2 %

（11/25時点）

【令和２年度　後期「学生による授業評価」実施結果】

１．実施時期

１月１３日～３月３０日まで

（１月１３日以前に終了している授業については，ＵＲＬ等通知後から原則１週間以内に授業評価の実施を依頼。）

２．実施方法

(1)新型コロナウィルス感染防止の観点から，前期同様，授業評価をＷｅｂアンケート形式により実施。

(2)Ｗｅｂアンケート形式の授業評価のＵＲＬ，ＱＲコードの配布及び実施の手順は，次のとおり。

・各授業の終盤で，授業担当教員がＵＲＬの送信またはＱＲコードの投映を行う。

・学生自身でＵＲＬまたはＱＲコードを読み取り，設問に回答する。

(3)次の点を学生に周知し，実施する。

・この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し，授業の改善を行うために実施するものであること。

・成績に影響することは全くないので，授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

・１科目につき１回だけ回答すること。

・複数の教員が分担をしている授業は，授業科目全体としての評価をすること。個別の評価をしたい場合は，自由記述欄に記入すること。

・項目⑬「授業の目的、内容、方法について教員間で連携がなされていた。」及び項目⑭「「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。」への回答の有無については教員の指示に従うこと。

３．調査結果の活用

集計結果については，教員にフィードバックし，授業の内容・方法等の改善に活かすとともに，必要に応じて教員のコメント等を付記し，個々の授業科目ごとに公表（学内限定）する。

４．実施結果（最終集計結果）

対象科目数	493
実施科目数	436
未実施科目数	57
実施科目割合	88.4 %

（3/30時点）

【令和２年度　「教育実践高度化専攻実習科目授業評価」実施結果】

１．実施時期

２月１８日～３月１２日まで

２．実施方法

(1)Webフォームによるアンケート調査とする。

(2)教育実践高度化専攻の学生を対象にOffice365 Formsのウェブアンケート形式を使用して実施する。

(3)次の点を学生に周知し，実施する。

・この調査は学生の実習への取組や理解度を把握し，実習の改善を行うために実施するものであること。

・回答は一括で統計的に処理され，回答が成績に影響することは全くないので，実習を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

３．調査結果の活用

集計結果については，コースにフィードバックし，実習科目の改善に活かし、公表（学内限定）する。

４．実施結果（最終集計結果）

対象科目数	17
実施科目数	17
未実施科目数	0
実施科目割合	100.0 %

・履修者数　148人

・回答者数　87人（58.8%）

４．「教職実践演習」にかかる「学生による授業評価」について

【事例研究】

学生による授業評価（教職実践演習「事例研究」）

授業の改善に役立てる目的で，学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が，皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野（　　系コース・　　分野　）

授業を受けたクラス（　　クラス　）

授業を振り返り，次の質問に答えてください。選択肢のうち，あてはまる番号に○をつけてください。また，（　）には具体的に書いてください。

問 1　この授業に関して，下記の項目①から⑫について，あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで，数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①グループでの話し合いに積極的に参加することができた。	4	3	2	1
②教員から提示された事例の内容を具体的にイメージすることができた。	4	3	2	1
③グループでの話し合いによって，自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
④納得のいく話し合いができた。	4	3	2	1
⑤グループの他のメンバーの意見を聞いて，自分の考えが深まった。	4	3	2	1
⑥事例研究で学んだ内容は，今後，教員になったときに役立つものだと思った。	4	3	2	1
⑦事例研究によって，４年間の学びを総合することができた。	4	3	2	1
⑧教員からの問いかけやアドバイスによって，グループでの話し合いが活発になった。	4	3	2	1
⑨教員から提示された事例の数は適切であった。	4	3	2	1
⑩教員から提示された事例は，４年間の授業や実習の中で疑問や課題を感じたことのある内容であった。	4	3	2	1
⑪教員からの講話によって，事例に含まれる実践的課題と対応策について，新たな学びがあった。	4	3	2	1

問 2　事例研究の中で，他に取り扱って欲しいテーマがあれば，自由に記述してください。

（　　）

問 3　事例研究について，良かった点及び改善すべき点があれば，自由に記述してください。

（　　）

学生による授業評価（教職実践演習「模擬授業」）

授業の改善に役立てる目的で，学生による授業の評価を実施します。

この授業評価の結果が，皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野（　　系コース・　　分野　）

授業を振り返り，次の質問に答えてください。選択肢のうち，あてはまる番号に○をつけてください。また，（　）には具体的に書いてください。

問 1　模擬授業を行った教科は何ですか。

1. 国語　2. 算数　3. 理科　4. 社会　5. 体育　6. 音楽　7. 図画工作　8. 家庭　9. 外国語活動（英語）

問 2　これまでの実地教育で，この教科の授業を行ったことがありますか。

1. ある　　2. ない

問 3　大学の授業（コースの専門科目，初等○○授業研究等）で，この教科の模擬授業を行ったことがありますか。

1. ある　　2. ない

問 4　この授業に関して，下記の項目①から⑦について，あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで，数字の欄に○をつけてください。なお，設問の「模擬授業」には，学習指導案の作成も含みます。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①模擬授業を通して，その教科に関する知識や理解が深まった。	4	3	2	1
②模擬授業を通して，新たな学びがあった。	4	3	2	1
③教員の説明や助言はわかりやすかった。	4	3	2	1
④模擬授業に積極的に取り組むことができた。	4	3	2	1
⑤模擬授業を通して，教科指導や授業づくりに関する自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
⑥模擬授業を通して，これまで 4 年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。	4	3	2	1
⑦模擬授業で学んだ内容は，今後，教員になったときに役立つものだと思った。	4	3	2	1

問 5　この授業で，あなたが模擬授業を行いたかった教科とその理由を書いてください。

1. 特になし　2. 教科（　　）

（理由　　）

問 6　その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

（　　）

学生による授業評価（教職実践演習「模擬保育」）

授業の改善に役立てる目的で，学生による授業の評価を実施します。
この授業評価の結果が，皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野（　　系コース・　　分野　）

授業を振り返り，次の質問に答えてください。選択肢のうち，あてはまる番号に〇をつけてください。また，（　）には具体的に書いてください。

問 1　何歳児の模擬保育を行いましたか。（　　）歳児

問 2　これまでの実習で，この年齢児の保育を行ったことがありますか。
1. ある　　2. ない

問 3　大学の授業（コースの専門科目，保育内容〇〇論等）で，この年齢児の模擬保育を行ったことがありますか。
1. ある　　2. ない

問 4　この授業に関して，下記の項目①から⑦について，あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から 1 つ選んで，数字の欄に〇をつけてください。なお，設問の「模擬保育」には，指導案の作成も含みます。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①模擬保育を通して，その年齢児の保育に関する知識や理解が深まった。	4	3	2	1
②模擬保育を通して，新たな学びがあった。	4	3	2	1
③教員の説明や助言はわかりやすかった。	4	3	2	1
④模擬保育に積極的に取り組むことができた。	4	3	2	1
⑤模擬保育を通して，子どもへの指導や保育展開に関する自らの課題を明確にすることができた。	4	3	2	1
⑥模擬保育を通して，これまで4年間の授業や実習の中で学んできた内容を確認できた。	4	3	2	1
⑦模擬保育で学んだ内容は，今後，保育者になったときに役立つものだと思った。	4	3	2	1

問 5 その他良かった点及び改善すべき点などがあれば記入してください。

（　　）

令和３年１月８日

「教職実践演習（まとめ）」授業担当教員各位

教職実践演習専門部会
部会長　須田　康之

教職実践演習に関する調査の実施について（依頼）

教職実践演習は，教職課程の質的水準の向上のために新設され，教員免許状取得において必修科目にされています。そこで，教職実践演習の教育効果や課題を明らかにするために，FD 推進委員会が実施している授業評価とは別様式で,学生と担当教員を対象とした質問紙調査を実施することとしており，本調査結果を踏まえて，授業内容・方法の充実と改善を図りたいと考えております。

回答は全体として集計・分析されます。また，データが調査目的以外のために使用されることはありません。データの照合にあたっては，個人情報が漏れないように慎重に取り扱います。なお，研究成果を公表する場合には，個人が特定できないようにした上で，回答していただいた内容を例示的に用いることはあります。

つきましては，調査の趣旨をご理解いただき，実施にご協力いただきますよう，どうぞよろしくお願いいたします。

＜実施方法について＞

1. 学生による授業評価

「まとめ」（第 14 回，第 15 回）の授業の終わりに，調査票を学生に配付し，記入させてください。記入後，回収願います。

※別添「令和２年度教職実践演習「学生による授業評価」の実施について」をご参照願います。

2. 授業担当教員対象の調査

「まとめ」（第 14 回，第 15 回）の実施後，調査票に回答願います。電子ファイルが必要な方は，学務課教務チーム学部担当（aca-gakubu@ml.hyogo-u.ac.jp，内線 2041）に連絡していただければ，調査票を E メールで送付いたします。

3. 提出について

上記 1 と 2 の調査票をとりまとめ，実施後速やかに学務課　教務チームへ提出願います。

令和３年１月８日

「教職実践演習（まとめ)」授業担当教員各位

教職実践演習専門部会
部会長　須田　康之

令和２年度教職実践演習「学生による授業評価」の実施について

標記のことについて，ＦＤ推進委員会が実施している授業評価とは別様式で実施することとしております。

つきましては，授業評価調査票を別添のとおり送付しますので，次の手順により調査を実施いただき，**実施後速やかに**調査票を**学務課教務チーム**へご提出ください。

なお，授業評価の集計結果（数値）については，公開することとなっておりますので，ご承知おき願います。

（授業評価実施にあたっての留意事項）

１.回収した調査票は，必ず調査票を配付した封筒の中に入れて学務課教務チームへ提出してください。

２.実施に当たっては，次の点を学生に周知してください。

（１）この調査は学生の授業への取組や理解度を把握し，授業の改善を行うために実施するものであること。

（２）成績に影響することは全くないので，授業を受けて感じたことをそのまま回答して欲しいこと。

（３）教職実践演習は，「事例研究」，「模擬授業」（「模擬保育」），「まとめ[学びの総括]」に分けて評価をすることとしており，今回は「まとめ[学びの総括]」の評価を行うこと。

３.調査票の配付及び回収は，以下の方法でお願いします。

（１）教員が授業評価調査票を受講生に配付する。

（２）**調査票の回収は，受講生の代表者が行い，回収用封筒に入れて，その場で封をして教員に渡す。**

（３）教員が学務課教務チームへ封筒を提出する。

学生による授業評価（教職実践演習「まとめ［学びの総括］」）

授業の改善に役立てる目的で，学生による授業の評価を実施します。
この授業評価の結果が，皆さんの成績に影響することは全くありません。授業を受けて感じたことをそのまま回答してください。より良い授業にするために調査への協力をお願いします。

所属コース・分野（　　系コース・　　分野）

問1 「まとめ［学びの総括］」の授業（第14回，15回）に関して，下記の項目①～⑦について，あなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から1つ選んで，数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①「まとめ［学びの総括］」を通して，大学4年間で身につけた資質能力が明確になった。	4	3	2	1
②「まとめ［学びの総括］」を通して，教職に就くにあたっての自己の取り組むべき課題が明確になった。	4	3	2	1
③これまで CanPass ノートに記入してきた「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」は，「まとめ［学びの総括］」において活用できた。	4	3	2	1
④「まとめ［学びの総括］」では，「学修成果シート」※及び「卒業準備ファイル」を用いてグループ討論等をすることによって，自分では気づかなかったことを知ることができたり，様々な視点から自分の学びを深めたりすることができた。	4	3	2	1
⑤「まとめ［学びの総括］」を通して，教職に就くにあたっての自覚や意欲がわいた。	4	3	2	1
⑥「まとめ［学びの総括］」を通して，教師として学び続けることの必要性を感じた。	4	3	2	1
⑦「まとめ［学びの総括］」において指導していただいた教員の指導内容は，4 年間の学びの成果を振り返ったり，深めたりする上で役に立つものであった。	4	3	2	1

※理数系教員養成特別プログラムの学生は「教職に向けた学びの記録」とする。

問2 「まとめ［学びの総括］（第 14 回，15 回）」の授業の内容や実施方法などについて，良かった点及び改善すべき点があれば下欄にお書きください。

最後に，「教職実践演習」全体（事例研究，模擬授業，まとめ〔学びの総括〕）について質問します。

問3 全15回の教職実践演習の授業を通して，次の3点についてあなたが思ったことを「とてもあてはまる(4)」～「あてはまらない(1)」の中から1つ選んで，該当する数字の欄に○をつけてください。

	とてもあてはまる	あてはまる	少しあてはまる	あてはまらない
①教職実践演習を通して，大学 4 年間で身に付けた資質能力が有機的に統合され，形成されていることを自覚することができた。	4	3	2	1
②教職実践演習を通して，将来教師になる上で，自分にとって何が課題であるか自覚できた。	4	3	2	1
③教職実践演習を通して，自分が不足している知識や技能を補うことができた。	4	3	2	1

【まとめ（教員用）】

教職実践演習の「まとめ」に関する調査（教員用）

指導担当コース・分野名（　　系コース・　　分野）　教員名

Ｑ１　教職実践演習の「まとめ」の授業ではどのようなことを行いましたか。授業の内容を下欄にお書きください。

〔　　〕

Ｑ２　教職実践演習の履修要件である教員養成スタンダードに基づく CanPass ノートの「学修成果シート※」及び「卒業準備ファイル」を，「まとめ」の授業でどの程度活用しましたか。下の選択肢の中から該当する内容を選び，数字に○を１つ付けてください。
（※理数系教員養成特別プログラムの学生は「教職に向けた学びの記録」とする。）

４．活用した　　３．ある程度活用した　　２．少し活用した　　１．活用しなかった

Ｑ３　「まとめ」の授業で「学修成果シート※」及び「卒業準備ファイル」を活用することについて，有意義であったと思いますか。下の選択肢の中から該当する内容を選び，数字に○を１つ付けてください。
（※理数系教員養成特別プログラムの学生は「教職に向けた学びの記録」とする。）

４．とてもそう思う　　３．そう思う　　２．少しそう思う　　１．そう思わない

Ｑ４　「まとめ」の授業を通して，学生は４年間で身に付けた資質能力と教職に就くにあたっての自己課題が明確になったと思いますか。下の選択肢の中から該当する内容を選び，数字に○を１つ付けてください。

４．とてもそう思う　　３．そう思う　　２．少しそう思う　　１．そう思わない

Ｑ５　「まとめ」の授業を行ってみて，課題として残ったことがありましたら，下欄にお書きください。

〔　　〕

調査にご協力いただき，ありがとうございました。

５.「ベストクラス」の選定・公表

平成 27 年度から選考を開始した「ベストクラス」について、本年度は、令和元年度開講科目の「ベストクラス」として 12 の授業科目を選定した。

●「ベストクラス」という概念について

「ベストティーチャー賞」なら、すでにいくつもの大学が制度として導入しているが、本学は、「ベストティーチャー」でも「賞」でもない、「ベストクラス」である。なぜ「ベストティーチャー」でないのか、そして、なぜ「賞」でないのか。ここに、「ベストクラス」という概念に込められたユニークな企図がある。

なぜ「ベストティーチャー」でないのか。授業は教員の努力だけでよいものにはならない。教員のみならず、学生の高い参加意識があってはじめてよくなる。そうだとしたら、授業を担当する教員にのみ焦点があてられる「ベストティーチャー」という表現はふさわしくない。

なぜ「賞」でないのか。「ベストクラス」は、優れた授業のモデルや規準を定め、それにあてはまるものを選ぶのではない。授業にはそれぞれ異なった意図やねらいがあるはずであり、それを一つの規準で評価することは授業の画一化を招きかねない。優れた授業とはどのようなものかという問いを失った瞬間に、優れた授業の多様性が失われる危険性がある。このように考えたとき、「賞」はなじまない。

●「ベストクラス」の選定

「ベストクラス」の選定にあたっては、学生と教職員が FD について公式に協議する「学生・教職員 FD 活動交流会」が大きな役割を果たしている。

選定の流れは、次の通りである。まず、前年度の授業評価結果の自由記述を検討して候補となる授業科目を選ぶ。つぎに、「学生・教職員 FD 活動交流会」のメンバーが、授業担当教員と受講者の双方にインタビューを行い、選定理由書を作成する。そして、それを FD 推進委員会で議論して最終的に選定するのである。

この過程では、学生と教職員が協働して作業にあたる。よい授業とはなにか、率直な意見交換が行われ、学生にとっても教職員にとっても、授業について思考する刺激的で貴重な機会となっている。

●「ベストクラス」の目的

本学の教育の質の向上のため、よい授業を教職員と学生が共有することにある。選ばれた授業科目のそれぞれにある「持ち味」を共有していただければ幸いである。

●ベストクラス選定科目の授業公開

よい授業を教員間で共有することを目的としたベストクラス選定科目の授業公開については、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、実施しないこととした。

ベストクラス選定結果一覧（令和元年度開講科目）

令和2年9月24日第2回ＦＤ推進委員会

課程	科目名称	履修年次	科目区分	受講者数	R1開講時期
学部	初等音楽科教育法（Ｂクラス）	2	教育実践・リフレクション科目群／初等教科指導法	86	前期 水２
	学習指導と学校図書館	1～4	教職キャリア科目群／教職支援	49	前期 木５
	初等社会（小Ｃ（大学院）クラス）	1	教育実践・リフレクション科目群／初等教科内容	13	前期 木３
	初等家庭科教育法（Ａクラス）	2	教育実践・リフレクション科目群／初等教科指導法	94	後期 木２
	国語学演習Ⅱ	3	専修専門科目群／専門教育（言語系）	10	後期 水２
	教育方法学	3	専修専門科目群／専門教育（学校教育）	10	後期 金２
大学院（修士）	肢体不自由児指導論（昼間クラス）	1	専攻科目／特別支援教育の理論と実践を学ぶ科目群	31	前期 火５
	教職員のストレスマネジメント（昼間クラス）	1	専門科目／専門領域科目群	38	後期 火２
	教えと学びの哲学	1	専門科目／専門領域科目群	15	後期 木２
	児童文学から教材研究へ（昼間クラス）	1	専門科目／教科専門と教科教育の架橋により理論と実践	22	後期 時間外
大学院（専門職）	教科・領域の内容・指導法研究Ⅵ（小学校英語）（昼間クラス）	3	専門科目／小学校教員養成特別コース	10	前期 金３
	教科・領域の内容・指導法研究Ⅳ（理科）（昼間クラス）	3	専門科目／小学校教員養成特別コース	17	後期 木３

平成 27 年 3 月 13 日
ＦＤ推進委員会決定

ベストクラスの選定について

１．ベストクラス選定の目的

ベストクラスは，本学の教育の質の向上のために，よい授業を教職員と学生が共有することを目的に選定されるものである。

２．選定手続き

①選定は，前年度授業評価結果を参考にし，学生・教職員ＦＤ活動交流会での検討に基づいて，ＦＤ推進委員会において行われる。

②授業評価の高評価授業科目を対象とし，原則として評価項目の平均値が 3.5 以上のものとする。ただし，選考基準平均値は，評価結果を考慮して設定できるものとする。

③高評価自由記述を検討して，よい授業を 10 程度に絞り込む。その際，授業規模，授業形態，履修年次，科目区分を考慮に入れる。

・学校教育学部　　81 人以上，80～31 人，30 人以下
　修士課程　　31 人以上，30 人以下
　専門職学位課程　　共通基礎科目，専門科目
・講義，演習，実験など

④候補とされた授業の担当教員と受講者（授業担当教員の推薦による）に学生・教職員ＦＤ活動交流会がインタビューを行い，検討資料とする。

・授業者に対しては，授業の意図，当該授業での授業意図の共有度，学生の参画度，当該授業の良さと課題など
・受講者に対しては，うけとった授業の意図，参画度，知的刺激，知識の創造など

３．選定された授業科目の公表方法等

①ベストクラスとして冊子，本学Ｗｅｂサイトで紹介する。
内容は
・授業名（履修年次，科目区分），開講時期（時限），教室環境，受講者数など
・選定理由
・授業者の意図と授業の振り返り，授業での工夫点，今後に向けた改善点
・受講者の参画度インタビュー，この授業のオススメポイント

②アクティブ・ラーニング研究会での公開授業の候補とする。

以上

６．アクティブ・ラーニング研究会の実施

Society 5.0×Teacher Education 研究会

- オンライン授業を経験した本学教職員が，今後の「ハイブリッド化」に向き合い，深く豊かに思考するための視点を学ぶ研究会（研修）

■ **第１回 研究会**

主題：「オンライン授業の先に何を見るか」（仮題）

日時：令和２年１２月４日（金）４時限

講師：石井 英真 氏（京都大学大学院教育学研究科准教授）

内容：自らのオンライン授業について問い直すとともに，従前の対面授業はもちろん授業そのものについて深く思考するための視点や論点を学ぶ。たとえば，ICTとのつきあい方，（わかるように順序だてて内容を授け教える）「授業」から（自ら内容を修める）「受業」への発想の転換とそこにあるオンライン化の核心（オフラインでの自習を充実したかたちで成立させること），それをふまえての「受業」に解消されない「授業」ならではの意味の再確認など（石井, 2020）。
また，オンライン授業と対面授業が併存する今後において，学生が「たしかに学んだ」という状態はいかに定義されるのか，学生の学びがどのような状態なら大学は責務を果たしたことになるのか。これらは，前記の点とも密接に関連し，新人教員の育成と現職教員の力量向上という明確なミッションをもつ本学にあって看過できない問いであるにちがいない。

方法：Zoomによるオンライン形式

対象：本学教職員

主催：教員養成・研修高度化センター

共催：FD推進委員会

⬇

■ **第１回 FDサロン**

日時：令和２年１２月４日（金）５時限

内容：研究会を本学教職員のみで振り返り，その内容等について意見交換することで，理解の深化を図りながら新たな展開可能性を模索する。本学教職員が語り合い学び合う場の一つに位置づけたい。

方法：Zoomによるオンライン形式

教員養成・研修高度化センターFDデザインチーム（山中・岸田・筒井・奥村）

□ 基本コンセプト
- Society 5.0 時代における専門職としての Teacher Educator の育成
- Society 5.0 時代の教師教育の展開可能性を見据えつつ，新人教員の養成と現職教員の力量形成を担う大学教員の継続的な職能成長のための研修プログラム等を研究開発する。

□ プロジェクト

１．Society 5.0 × Teacher Education 研究会

２．優れた「授業改善の仕組み」づくりのための試み

（１）学生参画型FDの新たな展開

・「学生Faculty Developer（仮称）」と展開する協働的な授業改善

（２）授業評価システムの発展的展開

・授業評価の意味の再構成

・授業評価のオンライン化とその潜在可能性の探求

2020年度 Society5.0×Teacher Education 研究会（第１回）事後アンケート結果

■ 参加者数：57名
■ 回答者数：30名（大学教員25名，附属学校教員1名，事務職員4名）
■ 満足度：4.30（５段階）

■ 今回の研究会について，ご意見・ご感想等がありましたら，お書きください。

- スライドでキーポイントを書いてくれたら，もっと分かりやすかったと思います。
- ありがとうございました。
- とても興味深かったです。
- 石井先生のお話はとても示唆に富むものであったのですが，もう少し具体的な事例を交えていただけるともっと分かりやすかった（理解できた）のではなかったかと思います。
- ほぼ毎日，オンライン授業の資料を作成しているが，今日のお話を伺い多々反省することがあった。オンラインによって逆に，教育を考え直す機会となるだろう。
- Zoomは会議用，自主学習会としてオンライン学習を捉えていく発想を，という話がとても興味深かったです。今後，オンラインと対面の併用を考えていくうえで，本日の内容を参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
- 個人的になんとなく思っていることを明確に言語化・整理していただけたなという気持ちです。あとは，現職の先生方，教員養成課程の学生たちにどう理解してもらい，実践していただくかが悩ましいです.
- とても具体的で詳細なお話で勉強になりました。所用でサロンの方には出られません。申し訳ありません。
- 最後の質問でのやりとりのなかにあったように，共同性の確保ということがオンライン授業の課題になるように思いました。
- 話は分かりやすかったが，資料が多すぎないか？
- 非常に勉強になりました。ちょっと時間をかけて消化する必要がありそうです。

■ 今後の研究会について，希望する内容やテーマを含め，ご意見等がありましたら，お書きください。

- 最近全学的に研修会が多いように思います。他学会・研究会などもズーム研修が増えていて，開催してくださる先生方には申し訳ないですが，しんどい毎日です（笑）。
- 担当授業の中で，オンラインと対面の併用の授業（ハイブリッド型）をどのように展開しているのか，実践例の紹介があればありがたいと思います。
- 機器やアプリケーション・ソフトの不具合をどこで見分けるのか？　操作者の問題かアプリの問題か？
- Teacher Educationの研究会なので，現職院生向けの教育や，アウトリーチの場での教員研修なども視野に入れるようなテーマがあると面白いかなと思いました。

2020年度 FDサロン（第１回）事後アンケート結果

■ 参加者数：18名
■ 回答者数：8名（大学教員6名，事務職員2名）
■ 満足度：4.75（５段階）

■ 今回のFDサロンについて，ご意見・ご感想等がありましたら，お書きください。

- 貴重な機会を提供いただき，ありがとうございました。先生方もやっぱりちょっと身構えるのだなと面白かったです。
- 実際に遠隔授業を行った上での生の感想や評価・分析を複数の先生方からお聞かせいただいて，いろいろと刺激を受けたり，気づきを得たりることができました。
- 話が活性化するまでが難しいですね。だんだんみなさまがのってくるプロセスが興味深かったです。
- 議論の持ち方，回し方が大変とは思うのですが，いろいろ考える場になって良かったです。ありがとうございました。

■ 今後のFDサロンについて，ご意見等がありましたら，お書きください。

- 発言者がちょっと偏ってしまった（私も出しゃばりすぎたかなぁ）感があり，発言をされていない先生方からも一言でもお話を伺えるとよかったように思います。それこそ，チャットを活用して遠慮なしに書き込んでいただくだけでもずいぶん違ったのではないでしょうか。
- 新しい試みお疲れさまでした。
- 良い企画だと思います。引き続き，どうぞよろしくお願いします。

令和２年１２月４日

教職員各位

ＩＲ・総合戦略企画室長
吉　水　裕　也

令和２年度ＩＲ学内研修会の開催について（ご案内）

このたびＩＲ・総合戦略企画室では、教職員のＩＲ（Institutional Research）活動に関する知識の修得と連携協力体制の強化を目的として次のとおり研修会を開催することにしました。

今年度は、「大学教育の継続的改善に向けたＩＲとＦＤの連動可能性（仮題）」をテーマに、立命館大学の鳥居朋子教授から講演を聴いた後、質疑応答を通じて理解を深めたいと考えています。

Zoom を活用したオンラインによる開催となりますが、多数の参加をお願いします。

記

日　　時　　令和３年１月２２日（金）　１４時５０分～１６時２０分

テ ー マ　　「大学教育の継続的改善に向けたＩＲとＦＤの連動可能性（仮題）」

講　　師　　鳥居 朋子 立命館大学 教育開発推進機構 教授

内　　容　　学生の学習成果、動向をいかに測定、把握し、それをどのようにして実際の教育改善活動に繋げていくのか。学生と教職員が成長の実感と喜びを分かち合える大学であるために、教職員と組織に求められることは何か。大学教育の基幹に位置するこうした問いをめぐって、私たちが思考を重ね取り組みを進めるために、その核心にある考え方や具体的方法等について学び、議論する。

対 象 者　　本学教職員

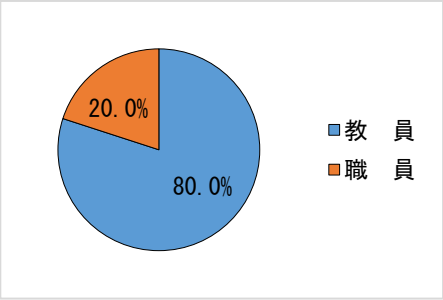
参加方法　　Zoom により開催しますので、次の方法でご参加ください。なお，この研修会は録画して学内限定で視聴可能にする予定です。(録画視聴は 1 月 29 日（金）までを予定)

令和２年度ＩＲ学内研修会アンケート結果

令和３年１月２２日(金)14:50～16:20　Zoom開催
参加者：教職員36人　　アンケート回答者：20人

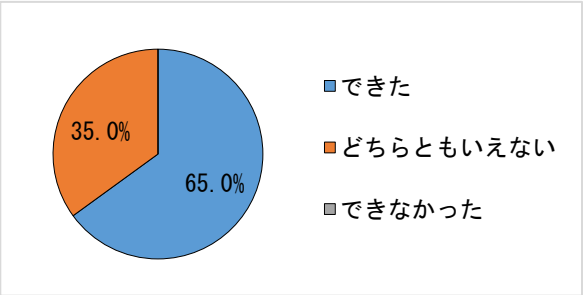
問１．あなたの属性について該当するものを選んでください。

教　員	80.0%
職　員	20.0%
合計	100.0%



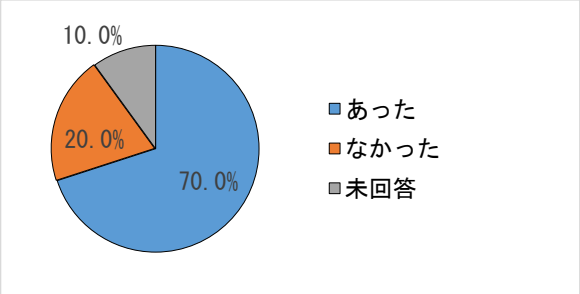
問２．ＩＲとＦＤの連動可能性についてイメージできましたか。

できた	65.0%
どちらともいえない	35.0%
できなかった	0.0%
合計	100.0%



問３．講演や質疑応答で紹介のあった取組の中で、本学でも取り組めそうなものはありましたか。

あった	70.0%
なかった	20.0%
未回答	10.0%
合計	100.0%

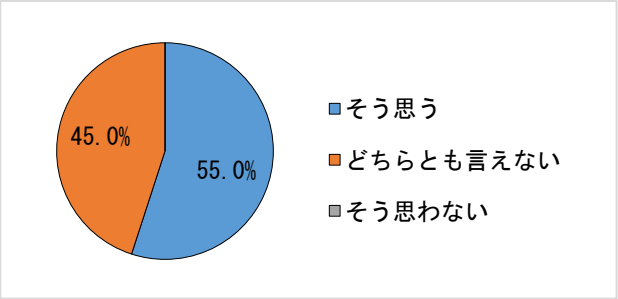


問４．前問３で「あった」と回答された方にお尋ねします。それはどのような取組ですか。

学生の参画
学生の参画等
学生の参加
学生がリサーチ・クエスチョンの作成に関わること
学生の参画の視点
教員の当事者性を高めるための、各コースでの評価（専門性の学部評価もいれて）を実施すること
連続的な改善である意識（PDCAサイクルを回すこと）
大学ー教育課程（プログラム）ー授業という３つの層で考えてみるというのは大事だと思いました。
内部質保証システムの構築
学生対象調査時における学生データの紐付けについての了解の取り付け
学生の成長・あゆみについては、CanPassノートと連動できるのではないか。
質的検証データについての説明内容
実際には難しいかもしれませんが、学習成果検証に「主観データ」「客観データ」を活用するとの話がありました。各部署で保有している様々な学内データを使用することで、本学でも取り組めるのではないかと思いました。

問５．研修会の内容は期待していたものでしたか。

そう思う	55.0%
どちらとも言えない	45.0%
そう思わない	0.0%
合計	100.0%



問６．前問５でそのように回答された理由をお書きください。

(そう思う)関連
当事者意識を再確認できた。
とてもわかりやすい内容で、データとしての当事者の意見を聞く重要性も再認識でした。
とても具体的で示唆に富むお話だったから
内部質保証について、重要な点をわかりやすく話をしていただいたと思います。
具体例が参考になりました。
大学の規模の違いはありますが、似通った課題対応に取り組まれていて、参考になりました。
IRの今日的課題についての示唆を得ることができたから。
他大学の取り組みやいろいろな取り組みのアイデアを得ることができた。
内部質保証について大変参考になりました。

(どちらとも言えない)関連
全体的な内容はよく分かりました。個々の教員の取り組みで気を付けることをもう少し聞きたかった。
エバリュエーションへの利用の具体例を聞くことができると思っていたため。
具体的な「期待」がなかったので
まだ具体的イメージが見えていないので
普段から意識をしていなかったため、内部質保証の話などは内容が難しく思う個所がありました。
抽象的にはわかるのですが、具体を本学に生かすまでのイメージはわかなかったです.
何をどのレベルで期待するかで、回答は異なる。漠然と「期待していたものでしたか」と問われても困る。

問７．そのほか今回の研修についての感想や、ＩＲについて意見、要望等をお書きください。

他大学の講師の話は、本学を見直すよい機会になると思う。システムが形骸化しないためにも、常に振り返って点検し、新たな視点を得るものを実施してほしい。
データの紐付けの重要性を感じました。ありがとうございました。
教職員にIRの意義をわかってもらうことが大事だと思いました。
ＩＲと関連組織との連携に関連した研修会等を開催して、ＩＲについての理解をさらに深める必要がある。
ディスカッションの時間において、進行役の発言時間が長く、ディスカッションにならないのが残念。進行役は、この研修で少しでもIRの知見を深めようとしている参加者に対し想像力を働かせながら進行されることを願います。
各教員の授業担当（授業数やそれぞれの授業受講生数）の実態の数量的なデータ整理をIRの一環で行ってほしい。
先行大学の取組について、成功例や課題等のお話が聞くことができて良かったです。
特段なし。

Society 5.0×Teacher Education 研究会ならびにFDサロンの開催について

教員養成・研修高度化センターFDデザインチーム
（山中・岸田・筒井・奥村）

■ **第２回 研究会**

タイトル：「アクティブ・ラーニングを問い直す―オンライン授業におけるアクティブ・ラーニングの課題と可能性―」

日時：令和３年２月２６日（金）３時限（13:10～14:40）

講師：白水 始 氏（国立教育政策研究所総括研究官・東京大学客員教授）

講演要旨：コロナ禍の影響で，大学教育も含め「対面一斉授業」の在り方も問い直されつつある。既に北米では，ビフォアコロナの時代から「何を学ぶか」についてはMOOC s など学外のリソースも使ったオンライン配信に任せ，「誰と学ぶか」，すなわち学内でのアクティブ・ラーニングで差異化を図るという大学教育モデルが存在していた。しかし，そこで難しいのは，「誰と何を学ぶか」，オンラインでの反転授業も含めた「学んだことになっている」知識の定着やコラボレーションの場のデザインであった。いまコロナにおいて，新しい授業の在り方をトータルに見直す必要が生じたことで，日本でも学びのトータルデザインを考え直す機運が高まっている。これを初等中等教育での実践研究を基盤に議論したい。

参考図書：白水始（2020）「対話力：仲間との対話から学ぶ授業をデザインする!」 東洋館出版社

方法：Zoomによるオンライン形式

対象：本学教職員

主催：教員養成・研修高度化センター

共催：FD推進委員会

⬇

■ **第２回 FDサロン**

日時：令和３年２月２６日（金）14:50～15:50（研究会終了後１時間程度）

方法：Zoomによるオンライン形式

＊ Society 5.0×Teacher Education 研究会
　オンライン授業を経験した本学教員が，今後の「ハイブリッド化」「ハイフレックス化」に向き合い，教師教育について深く豊かに思考するための視点を学ぶ取り組みです。

＊ FDサロン
　研究会に参加した教職員がその内容を振り返って意見交換することにより，理解の深化を図るとともに今後のFD活動の展開可能性を探求するもので，教職員による語り合い学び合いの場となるものです。

2020年度 Society5.0×Teacher Education 研究会（第２回）事後アンケート結果

■ 参加者数：約65名
■ 回答者数：21名（大学教員20名，事務職員1名）
■ 満足度：4.86（５段階）

■ 今回の研究会について，ご意見・ご感想等がありましたら，お書きください。

- 大変勉強になりました。
- ブレイクアウトセッションの楽しさを実感できました。ありがとうございました。
- 良い課題でした。課題が良ければアクティブになるということがよく分かりました。
- 大きなねらいを大切に，小さな手立てを積み重ね，楽しい学びを実現したいです。
- とてもわかりやすく，興味深い内容でした。アクティブラーニングの方法論に目が向きがちだというご指摘にはとても納得いたしました。アクティブラーニング用に再度，教材を構築することは大変なことだとは思いますが，教員同士のネットワークを使いながらよりよい授業づくりができればと思いました。ありがとうございました。
- どのトピックも興味深かったです。ジグソーを実際に体験することで，学習者はこんなふうに学ぶのか，ということが改めてわかりました。ありがとうございました。
- アクティブラーニングについて再認識させていただきました。
- ジグソー法を初めて体験して様々な可能性を感じました。使ってみたいと思います。
- 白水先生の楽しいお話しでした。
- 学習過程，教育内容として，アクティブラーニングを自分の専門にも取り入れ，授業展開が可能であると思いました。

■ 今後の研究会について，希望する内容やテーマを含め，ご意見等がありましたら，お書きください。

- 参加型がわかりやすくて良いですね。
- こういう時間は嬉しいです。ありがとうございました。
- これまで２回とも，とても楽しく参加させていただいております。FDサロンにも参加させていただきたいのですが，申し訳ありません。私としては，それがとても残念です。

2020年度 FDサロン（第２回）事後アンケート結果

■ 参加者数：約20名
■ 回答者数：11名（大学教員9名，事務職員2名）
■ 満足度：4.45（５段階）

■ 今回のFDサロンについて，ご意見・ご感想等がありましたら，お書きください。

- 多様な考えを知ることができました。
- お話できて楽しかったです。こういう話が自然発生的に起きないという意味では，オンラインのみの状況は難しいですよね。
- それぞれの専門的立場，現在の関心事等の視点から捉えた考えを聞くこと何よりの刺激になるとともに新たな学びの糸口になるとあらためて感じました。ありがとうございました。
- 興味深い議論でした。以下，感想です・・・　主体的な学びのために学生や児童自ら課題を立てることは重要で，そのために学習環境を整えることが大切であることは納得ができます。ただ（私は芸術コースの教員ですが）芸術科の授業において，理解を深めることを目的として，主体的になるために立てる課題とはどういうものだろう？と考えました。そこで気づいたことは，様々な教科がどちらかと言うと学生や児童が何かをインプットする（理解を深める）ことが目的だったり評価に繋がるのに対して，芸術科ではアウトプットを目的としたり重視している（ようだ）ということです。つまり，他の教科でインプットしたものを，アウトプットする場が芸術科なのではないかということ。そしてよく言われるように，アウトプットする時に自らのもの（深い理解）になるということ。STEMにArtが加わってSTEAMになる意味はそこにあるようだと，ひとり溜飲を下げていました。
- 大変興味深く参加させていただきました。ありがとうございました。
- いろいろ参考になりました。また今後考えるヒントになりました。小中高大院の学習段階の違い，学生の学力の広がりなど，研究分野は違えど，皆さん同じような問題を抱えていると感じました。一方で聞き役でいる間はいいけれども，発言はなかなか難しく感じました。
- 多様なアプローチや意見やうかがうことができて良かったです。
- 大学でのアクティブ・ラーニングについて，白水先生のお話をもとに議論ができて有意義でした。しかし，議論がかみ合っていないと思われる場面もありました。それはおそらく，どのような学生向けの，どういったねらいの授業を想定しているのかが，教員それぞれでばらばらなまま，そこを互いに確認せずに方法論だけを語ってしまったせいではないかと考えます。授業のねらいや学習者要因と方法論がセットであることを，私も知っていたはずでしたが，すっかり忘れており，反省しました。○○先生がおっしゃられていた，学習者自身が問いを持つ（授業者はそれを待つ）というのは，○○先生がされているような授業なら，たしかにありうることだと，後になって気づきました。

■ 今後のFDサロンについて，ご意見等がありましたら，お書きください。

- Teamsなんかに自由に議論できる「場」とかがあってもよいかもしれませんが，意図的に作った場はなかなか盛り上がらないという面もありますよね。
- 是非引き続き定期的にこのようなサロンを開いて欲しいと思いました。
- 自由に出せ出せのほうが，参加しやすい，言いやすい，ということも事実ですので難しい面もあるかと思いますが，○○先生のご意見にもあったように，本学の実態に合わせて，少し論点を絞って，ゆるやかに段階的，発展的な議論とするのもよいかと思いました。

７．学生・教職員ＦＤ活動交流会の実施

第１回　学生・教職員ＦＤ活動交流会の実施結果について

学生・教職員ＦＤ活動交流会では、本学のＦＤ活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》
令和２年７月２日（木）１４：５０～１７：１５

《会議形式》　zoom による開催

《参 加 者》	３５名	（内訳）	大学院学生　１３名
			学部学生　１１名
			教員　８名
			事務職員　３名

《実施内容》
１．ベストクラス選定にかかる趣旨及び具体的手順の確認が行われた。

２．配付資料に基づき、zoom のブレイクアウトセッション機能を使用し、課程別にグループ毎の選定作業が行われた。

３．各グループ（Ａ班～Ｅ班）の選定結果の共有が行われた。

４．次回の内容について確認が行われた。
①８月上旬（7/20～8/7）までにインタビュー等を実施すること。（日程等については後日、教務企画チームが調整する。）
②８月末までにベストクラス候補選定理由書を作成すること。
③９月中に学生・教職員ＦＤ活動交流会を開催し、ベストクラス候補を選定すること。

第２回　学生・教職員ＦＤ活動交流会の実施結果について

学生・教職員ＦＤ活動交流会では、本学のＦＤ活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》
令和２年９月１７日（木）１３：１０～１４：４０

《会議形式》　zoom による開催

《参 加 者》　２８名　（内訳）大学院学生　８名
学部学生　８名
教員　８名
事務職員　４名

《実施内容》
１．ベストクラス選定手順の確認

２．配付資料の「ベストクラス候補選定理由書」に基づき、候補科目について検討の結果、１２科目全てをベストクラス選定候補として、9 月 24 日開催の FD 推進委員会に推薦することとなった。

３．次回開催日については、11 月中旬を目処に後日、事務局から日程照会を行う。

第３回　学生・教職員ＦＤ活動交流会の実施結果について

学生・教職員ＦＤ活動交流会では、本学のＦＤ活動への学生参画の促進と大学教育の活性化を図るために、本学においては、「優れた授業は教員だけでなく、参加するすべての構成員の高い意識があって、はじめて成立するものである」ことを念頭において、教員と学生が学び合う環境を実現している授業を選定する仕組みを、学生と一緒に模索している。

《開催日時・場所》
令和２年１１月１６日（月）１６：３０～１８：００

《会議形式》　zoom による開催

《参 加 者》	２２名	（内訳）	大学院学生	１０名
			学部学生	２名
			教員	７名
			事務職員	３名

《実施内容》

１．学生による授業評価等の意見交換について
①ベストクラス候補選定方法について、②学生による授業評価についての２点に基づき、全体で意見交換を行った。主な意見については、別紙（第３回　学生・教職員ＦＤ活動交流会記録メモ）のとおり。

２．次回開催について
開催する場合は、事務局から日程照会を行う。

第３回　学生・教職員ＦＤ活動交流会記録メモ

○学生による授業評価について

【評価項目】

・項目⑦（教員は，学生の参加をうながすため，適切な授業方法を工夫していた。）について，オンライン授業では，質問しにくい環境だった。
・項目の量が多すぎるとは思わない。
・具体的な項目があった方が答えやすい。例えば項目⑭（「理論と実践の融合」について配慮がなされていた。）は答えにくい。
・オンライン授業か，対面授業かの項目を追加する。同一基準で評価すると観点が違ってくる。
・履修者の人数によって項目を変えてもよいのではないか。
・項目⑮（オンラインのメリットが活かされた授業だった。）について，オンラインのメリットが生かされた授業とは？また，メリットとは何を指すのか。
・学生側の取り組みに関する項目を追加しても良いのではないか。学生がどのように取り組んでいたかということは教員側からも重要だと思う。
・項目⑮について，本学の対面授業を体験していない１年次と，体験している２年次以上では，評価の観点が違う。
・項目⑰（この授業で提示された課題の量は適切であった。）について，履修している授業科目数によって，評価の観点が違う。
・項目⑱（毎回の授業の予習・復習にかけた時間は平均どれくらいですか。）について，課題を含めると，全員「４．３時間以上」となり，課題を多く課す授業は，自動的に評価点が高くなる。
・授業担当教員作成の独自項目を設けると，ベストクラス選定の評価に影響がある。

【授業評価の実施・通知方法】

・オンラインだと期間が長いので自由記述が記入しやすい。
・昨年度までのマークカードで授業評価をする場合，授業時間内に授業評価の時間をとって回答できるよう実施すると，学生も次の授業開始を気にせずに回答できる。
・メールでの授業評価通知は埋もれてしまうので，回答することを忘れてしまう。
　→偏った意見となり，回答率も低くなる。（実際に今年度は，昨年度に比して低い。〔R1 前期回答科目割合：97.8%　R2 前期回答科目割合：94.5%（△3.3%）〕）
・他者（授業担当教員や学生など）の目が気になるので，紙で書くよりは，オンラインの方が記入しやすく，時間もかけられる。
・履修者数が少ない場合に，マークカードで回答して教員が回収する方法だと回答しづらいが，オンラインは回答しやすい。
・授業評価通知の時期にバラつきがあるので，締切を揃える。または，大学で統一すべきである。
・授業評価専用のサイトを作成する。まとめて回答できるようにすると，埋もれることや回答し忘れがなくなるのではないか。

・LiveCampus の「授業評価アンケート」項目を活用する。レポート機能のように〆切が表示されたら，メールで埋もれることがなくなるのではないか。
・１年次と２年次以上では，対面授業を体験の有無が異なるので，オンライン授業の授業評価への向き合い方が異なる。

○ベストクラス選定方法について

・項目ごとに突出して評価が良い科目も参考になると思うので，ベストクラスを項目ごとに分けてもいいのではないか。
・複数教員で担当する授業科目を評価する場合，総合的な判断がしづらい。
・教員ごとに評価・選定をすると,「ベストティーチャー」を選定することになってしまう。
・授業評価自体が満点主義になっているので，評価基準を見直すべきである。
　→デコ（評価点が低くても，突出して良い授業の取り組み）の部分を拾えていない。
・良い授業を画一化しないため。
・なぜ対面授業の経験がない１年次が昨年度の授業評価をしているか疑問である。
　→Ｕ２，Ｍ２，Ｐ２の学生を対象にすべきである。Ｕ１，Ｍ１，Ｐ１は負担が大きい。

○ＦＤ活動のアピール方法

・ＦＤ活動をもっとオープンにしていくべきではないか。
　→それがより良いＦＤ活動につながる。
・ＦＤ活動（ベストクラス選定等の学生）の体験談をアピールする。
・入学前のパンフレット等にＦＤ活動を本学の特色としてアピールする。
・各クラス・各コースから学生メンバーを選出する際に，アピールする材料が少ない。
・参加する意味がある活動であることを，後輩に伝えていくべきである。

以上

７．令和２年度　他大学等のFD研究会等参加状況一覧

No.	所属	役職	氏名	用務内容	日程	実施方法
1	教育実践高度化専攻 学校臨床科学コース	教授	山中　一英	関西地区FD連絡協議会第13回総会	2020/7/18(土)	オンライン
2	学務課	課長	谷林　径明	関西地区FD連絡協議会第13回総会	2020/7/18(土)	オンライン

Ⅲ　資　料

H25.10.2　教育研究評議会決定

本学におけるＦＤの定義について

兵庫教育大学におけるＦＤとは，本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う，教育の質保証をめざすあらゆる取組のことである。

【定義のポイント】

（１）本学のミッション及びビジョンを実現すること　（Ｗｈａｔ　ｆｏｒ）

（２）全学で日常的に行われる全ての教育改善活動や学修支援活動をＦＤ活動と認識すること　（Ｗｈａｔ）

（３）教員と事務職員が協働し，学生の参画を推進すること　（Ｗｈｏ）

（４）教育の質保証及び教育力向上をめざすあらゆる取組の妥当性，有効性について継続的に検証を行い，更なる改善・充実を組織的に図ること　（Ｈｏｗ）

兵庫教育大学における FD 推進活動への取り組み

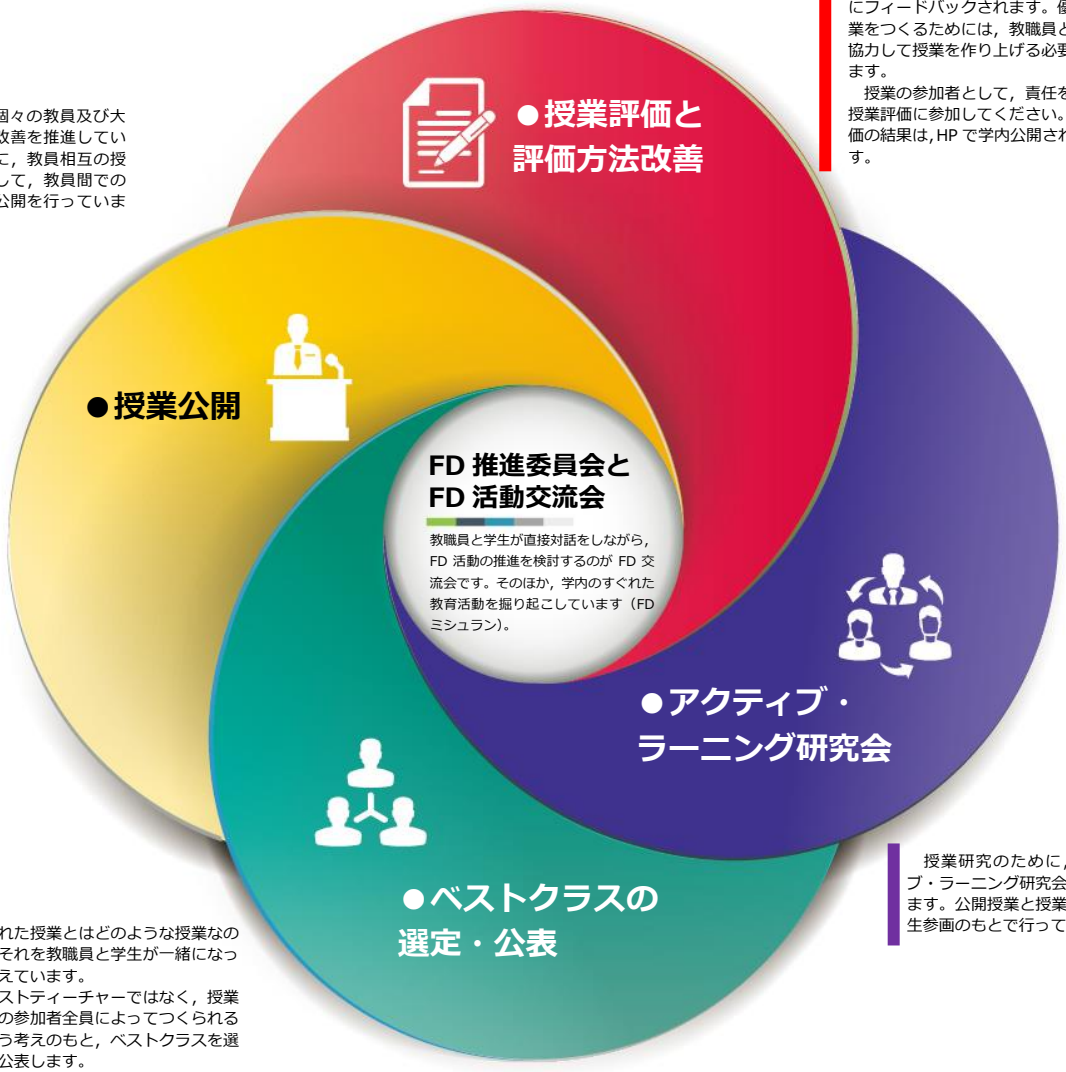
FD とは，ファカルティ・ディベロップメントの略で，教育の質保証をめざす取り組みのことです。

本学における FD とは，本学のミッション及びビジョンを実現するために，大学院・学部におけるカリキュラムや授業についての内容・方法・評価等に関して，教員と事務職員が協働し，学生の参画を得て行う，教育の質保証をめざすあらゆる取り組みを指しています。

本学では，個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的に，教員相互の授業研究の場として，教員間での日常的な授業公開を行っています。

前期末および後期末に全ての授業で授業評価を行っています。評価結果は10～11 月（前期）と 4～5 月（後期）にフィードバックされます。優れた授業をつくるためには，教職員と学生が協力して授業を作り上げる必要があります。

授業の参加者として，責任を持って授業評価に参加してください。授業評価の結果は，HP で学内公開されています。



優れた授業とはどのような授業なのか。それを教職員と学生が一緒になって考えています。

ベストティーチャーではなく，授業はその参加者全員によってつくられるという考えのもと，ベストクラスを選定し公表します。

授業研究のために，アクティブ・ラーニング研究会を行っています。公開授業と授業研究会を学生参画のもとで行っています。

○国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会規程

(平成16年4月1日規程第17号)

改正 平成17年3月31日　平成17年9月6日
平成18年3月8日　平成18年7月12日
平成18年12月6日　平成19年3月14日
平成20年1月16日　平成20年3月11日
平成23年3月14日　平成24年3月26日
平成25年4月2日　平成28年1月13日
平成29年3月29日　平成29年6月30日
平成31年2月12日

(設置)

第1条　国立大学法人兵庫教育大学(以下「本学」という。)におけるファカルティ・ディベロップメント(教育の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究。以下「FD」という。)の推進を図るため，国立大学法人兵庫教育大学ファカルティ・ディベロップメント推進委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(構成)

第2条　委員会は，次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1)　副学長のうち学長が指名した者　１人

(2)　教育支援担当の学長特別補佐

(3)　次のア，イ及びウの区分により各専攻からの推薦に基づき学長が指名した者

ア　人間発達教育専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教　２人

イ　特別支援教育専攻に所属する教授，准教授，講師又は助教　１人

ウ　教育実践高度化専攻(教育政策リーダーコースを除く。)に所属する教授，准教授，講師又は助教　３人

(4)　学長が指名した者

2　前項第3号及び第4号に規定する委員の任期は，2年とする。ただし，欠員を生じた場合の後任の委員の任期は，前任者の任期の残余の期間とする。

3　前項の規定による委員は，再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第3条　委員会に委員長及び副委員長を置き，委員長は，前条第1項第2号に規定する学長特別補佐をもって充て，副委員長は，委員の互選によって定める。

2　委員長は，委員会を招集し，議長となる。

3　副委員長は，委員長を補佐し，委員長に事故があるときは，委員長の職務を代行する。

(所掌事項)

第4条　委員会は，次の各号に掲げる事項を企画し，及び実施する。

(1)　FDに係る調査・研究に関すること。

(2)　教育の内容及び方法を改善するための支援に関すること。

(3)　教育改善に係る評価に関すること。

(4)　その他FDに関すること。

(議事)

第5条　委員会は，委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開き，議決することができない。

2　委員会の議事は，出席委員の過半数でこれを決し，可否同数のときは，議長の決するところによる。

（代理出席）
第５条の２　委員会は，第２条第１項第３号に規定する委員が事故その他やむを得ない理由により委員会に出席できないときは，当該委員が所属する専攻の教授，准教授，講師又は助教を代理者として出席させることができる。
２　前項の規定により代理者を出席させた場合は，当該代理者を委員とみなす。
（委員以外の者の出席）
第６条　委員会は，必要があると認めるときは，委員以外の者の出席を求め，意見を聴くことができる。
（専門委員会等）
第７条　委員会が必要と認めるときは，専門的な事項を調査検討するため，専門委員会等を置くことができる。
（事務）
第８条　委員会に関する事務は，教育研究支援部学務課が処理する。
（雑則）
第９条　この規程に定めるもののほか，委員会の運営に関し必要な事項は，別に定める。

附　則
この規程は，平成16年４月１日から施行する。

附　則（平成17年３月31日）
この規程は，平成17年４月１日から施行する。

附　則（平成17年９月６日）
この規程は，平成17年９月６日から施行する。

附　則（平成18年３月８日）
この規程は，平成18年４月１日から施行する。

附　則（平成18年７月12日）
この規程は，平成18年７月12日から施行する。

附　則（平成18年12月６日）
この規程は，平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成19年３月14日）
１　この規程は，平成19年４月１日から施行する。
２　この規程施行後第２条第１項第２号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず，学長が定める。

附　則（平成20年１月16日）
この規程は，平成20年４月１日から施行する。

附　則(平成20年3月11日)

この規程は，平成20年4月1日から施行する。

附　則(平成23年3月14日)

1　この規程は，平成23年４月１日から施行する。

2　この規程施行後第２条第１項第３号及び第４号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第２項の規定にかかわらず平成24年３月31日までとする。

附　則(平成24年3月26日)

この規程は，平成24年4月1日から施行する。

附　則(平成25年4月2日)

この規程は，平成25年4月2日から施行し，平成25年4月1日から適用する。

附　則(平成28年1月13日)

1　この規程は，平成28年4月1日から施行する。

2　この規程施行後第2条第1項第3号及び第4号の規定に基づき最初に指名された委員の任期は，同条第2項の規定にかかわらず，学長が定める。

附　則(平成29年3月29日)

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附　則(平成29年6月30日)

この規程は、平成29年7月1日から施行する。

附　則(平成31年2月12日)

1　この規程は，平成31年4月1日から施行する。

2　この規程施行の際，現に改正前の第2条第1項第3号の規定に基づき特別支援教育専攻から推薦された委員である者は，改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき同専攻から推薦された委員，教科教育実践開発専攻に所属する者として専攻から推薦された委員である者のうち，芸術系教育コースに所属する者は，改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき人間発達教育専攻に所属する者として専攻から推薦された委員，理数系教育コースに所属する者は，改正後の第2条第1項第3号の規定に基づき教育実践高度化専攻に所属する者として専攻から推薦された委員であるとみなし，その任期は，同条第2項の規定にかかわらず残任期間と同一の期間とする。

平成 21 年 11 月 6 日
学　長　裁　定
改正　平成 26 年 6 月 2 日

授業公開の実施に関する申合せ

1　授業公開の目的

本学における教員相互の「授業研究」の場として設定し，個々の教員及び大学全体の授業改善を推進していくことを目的とする。

2　対象授業

原則として，授業は全面公開とする。ただし，授業担当教員が公開することが適切でないと判断した授業については除外する。

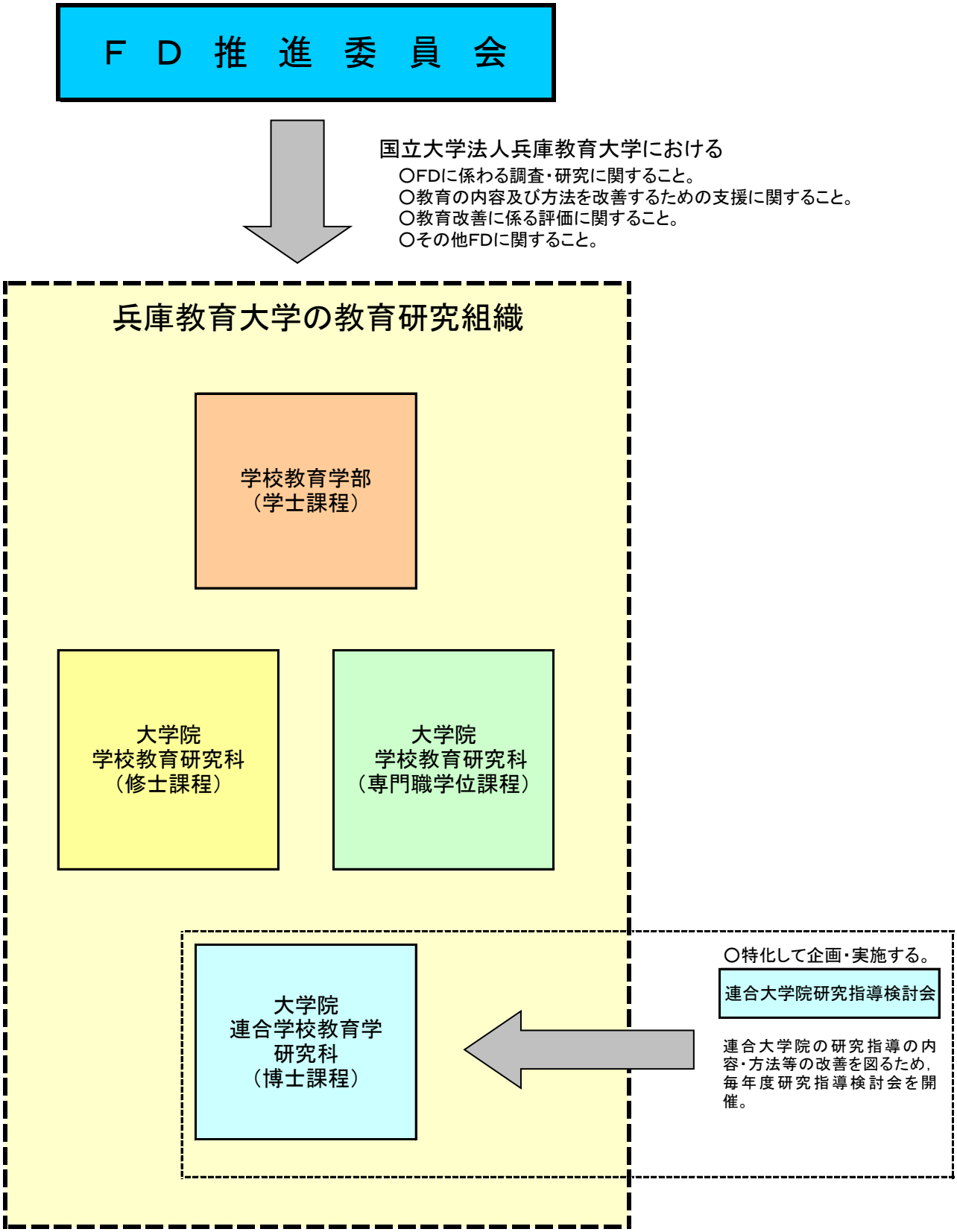
3　公開期間

各教員においては，日常的に「授業研究」を行い，授業の改善に努めているところであるが，このような大学組織としての「授業研究」をさらに推進するため，個々の授業科目において授業公開を行うことができるものとする。その場合，授業公開に参加を希望する教職員は，当該授業担当教員に対し事前に了承を得るものとする。ただし，日常の教育活動を保証するため，次の期間については公開の対象としない。

(1)　定期試験の期間
(2)　学期当初の期間（１～２週間）
(3)　実地教育等に関わる期間

FD活動

本学におけるFD推進委員会と教育研究組織との関連図



ファカルティ・ディベロップメント推進委員会委員名簿

令和2年4月1日

所 属 等	職　名	氏　名	任　期	備　考
－	副学長	須田　康之	－	第１号委員
－	学長特別補佐 （ＦＤ推進担当）	山中　一英	－	委員長 第２号委員
人間発達教育専攻 学校心理・学校健康教育・発達支援コース	教　授	西岡　伸紀	R2.4.1 ～R4.3.31	第３号委員
人間発達教育専攻 生活・情報・健康系教育コース	教　授	岸田　恵津	H31.4. 1 ～R3.3.31	〃
特別支援教育専攻 障害科学コース	教　授	河相　善雄	R2.4.1 ～R4.3.31	〃
教育実践高度化専攻 学校臨床科学コース	准教授	伊藤　博之	R2.4.1 ～R3.3.31	〃
教育実践高度化専攻 理数系教科マネジメントコース	准教授	川内　充延	R2.4.1 ～R4.3.31	〃
教育実践高度化専攻 小学校教員養成特別コース	教　授	初田　隆	H31.4. 1 ～R3.3.31	〃
－	副学長	吉水　裕也	H31.4. 1 ～R3.3.31	第４号委員